

平成30年度 事業報告

一人ひとりを認めあい、支えあう、おおらかなまち“大津”
を目指して、市民・当事者が主体の福祉のまちづくりを進めます

目標1) 多様なネットワークの力で市民のニーズを広く受け止め解決する体制づくり

目標2) 一人ひとりが生きる力を高めあい支えあえる地域コミュニティづくり

目標3) 新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり

社会福祉法人

大津市社会福祉協議会

目 次

1. 総括	2
2. 会務の運営	4
(1) 理事会の開催	
(2) 評議員会の開催	
(3) 監事会の開催	
(4) 評議員選任・解任委員会の開催	
(5) 常任理事会の開催	
(6) 第三者委員会の開催	
(7) 賛助会費や寄付金等の自主財源の確保	
(8) 第5次地域福祉活動計画の推進	
3. 活動の目標と具体的事業	6
目標1) 多様なネットワークの力で市民のニーズを広く受け止め解決する体制づくり	
1-1 情報を必要な人に届ける取り組みの充実	
1-2 市民が気軽に相談できる体制づくりとより積極的なニーズの把握	
1-3 相談を受け止め、対応する力の向上	
1-4 コーディネーション力の高い専門職の充実	
1-5 権利擁護支援の充実	
1-6 大津市における地域包括ケア体制の構築	
目標2) 一人ひとりが生きる力を高めあい支えあえる地域コミュニティづくり	39
2-1 福祉学習の推進	
2-2 生きる力を育む場づくり	
2-3 小地域における福祉のまちづくりの基盤強化	
2-4 災害時にも強い支援体制づくり	
目標3) 新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり	65
3-1 ボランティアやNPO活動の推進	
3-2 新しい参加者を巻き込んでいく取り組みの推進	
3-3 地域で活動している人や団体の新しいつながりづくり	
3-4 地域福祉を協働で進める取り組みの推進	

平成30年度 社会福祉法人大津市社会福祉協議会 事業報告

1. 総括

本会では、第5次地域福祉活動計画の理念である、『一人ひとりを認めあい、支えあう、おおらかなまち“大津”』を目指して、平成30年度は「働き方改革と労働安全衛生」、「生活支援体制整備事業の推進」、「ボランティアセンター・災害ボランティアセンターの運営」、「施設連絡会の運営」、「子ども・若者総合相談窓口事業の推進」、「法人後見事業の推進」、「ファミリーサポートセンターの運営」の7点を重点項目として、市民・当事者が主体の福祉のまちづくりを進めた。以下、項目ごとに報告する。

- (1) 「働き方改革と労働安全衛生」として、時差勤務制、勤怠管理システムの導入による労務管理を行った。また、衛生管理者を配置し、衛生委員会を開催しながら、働きやすい職場づくりに努めた。その結果、時間外労働の削減、計画的な休暇取得につながった。ストレスチェックの導入により、グループごとのストレス要因や種類の把握ができ、人員配置や仕事量の見直しの指標となった。
- (2) 「生活支援体制整備事業の推進」として、第2層（7保健福祉ブロック）で高齢者の生活を支える体制づくり、高齢になっても役割を発揮できる地域づくりについて協議体を通し、多様な主体の連携・協働を推進した。ここでは、地域住民や地域組織、福祉施設、医療関係、企業等の分野を超えたつながりが生まれ、今後の地域包括ケアシステムの一步を踏み出した。また新たな取組として、退職シニアの男性を対象に、地域福祉担い手養成講座を開催し、会社人から地域人への意識の変化や地域課題の現状を伝えることで、地域活動やボランティア活動への参加が促進されただけでなく、社会福祉協議会の応援団としての協力も得られた。
- (3) 「ボランティアセンター・災害ボランティアセンターの運営」では、昨年度に引き続きボランティアを始めてみたい方を対象に出会いのボランティアカフェを開催したり、ボランティアグループへの「ひろげようボランティア」助成金を立ち上げたことで、新たなボランティアの発掘だけでなく、既存団体の活性化につながった。また、災害ボランティアセンターとしては、7月豪雨災害に対して、2回災害ボランティアバスを運行したところ、地域住民や学生、施設連絡会、事前登録者など多くの参加者があり、大津市で災害時における担い手として期待できる結果となった。
- (4) 「施設連絡会の運営」では、生活困窮者やひきこもりの支援、支援を必要とする子どもたちの居場所づくり、高齢者等の安心を支援する事業などに取り組んだ。ここでは、福祉施設の地域貢献事業の実施を目的としていたが、事業の結果、施設だけでなく、対象者個人、地域、市社協、行政などにも大きな効果をもたらす事業に発展した。
- (5) 「子ども・若者総合相談窓口事業の推進」では、子ども・若者地域協議会にも参画し、事例検討会や研修会で関係機関との顔の見える関係づくりを進めた効果があり、関係機関からつながる相談も増えた。また、電話や面談が中心ではあるが、相談専用のメールアドレスを用意し、電話での対応が困難な方への選択肢が広がり、より多くの相談対応につなが

った。他にも同行支援、生活支援、就労支援、居場所さがし、家族支援など支援の種類も増え、より相談者に寄り添ったものになっている。

(6) 「法人後見事業の推進」としては、地域福祉権利擁護事業契約者で判断能力が低下した方を対象に、成年後見の選任を20件受任した。後見に移行することで、代理業務や取り消し業務も可能になり、本人の人権や生活、財産を守ることができた。また、権利擁護支援センターと連携し、事例検討会や受任調整会議、なんでも相談会等に参加し、関係機関との連携を図ることで、事業の見える化につながり透明性の高いサービス、リスクマネジメントになっている。

(7) 「ファミリーサポートセンターの運営」では、例年子どもの送り迎えや一時預かりの活動内容が多いが、最近は母親が在宅時の育児サポートが増加しており、育児不安・社会不安を抱えておられることもうかがえる。つまり、家族機能の低下、地域課題の多様化・複雑化する中で、制度の狭間を埋める社会資源として期待されており、共助の実践事例のひとつになっている。

以上の重点7事業を通して、第5次地域福祉活動計画の目標1である「多様なネットワークの力で市民のニーズを広く受け止め解決する体制づくり」に対しては、市や市社協、地域で活動する人々などとの協働により、問題を早期に発見し、既存の制度では対応しきれない問題を解決することができる体制づくりが進んだ。

また、目標2である「一人ひとりが生きる力を高めあい支えあえる地域コミュニティづくり」では、地域住民が、福祉について理解・共感ができる機会や場が提供できた。さらに、平常時から関係機関や地域との連携を推進し、災害や緊急時に対応するための環境やしくみの構築につながった。

そして、目標3の「新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり」では、市内の多様な組織との協働関係をより深める取り組みを進め、地域で中心となって活躍できる人材の育成や活用を推進し、新たな参加やつながりを生み出すしくみづくりにつながった。

以降、会務の運営、具体的事業を報告する。

2. 会務の運営

(1) 理事会の開催 (開催回数 6 回)

◆第 1 回理事会 平成 30 年 5 月 31 日 (木) 10:00~10:50 (理事 13 名出席)

- 議案第 1 号 平成 29 年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会の事業報告及び決算の承認について
- 議案第 2 号 理事辞任に伴う理事候補者の補充選任について
- 議案第 3 号 顧問の就任について
- 議案第 4 号 定時評議員会の開催について

◆第 2 回理事会 平成 30 年 6 月 11 日 (月) 文書決議

- 議案第 5 号 社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員の補充選任について

◆第 3 回理事会 平成 30 年 10 月 5 日 (金) 13:30~15:10 (理事 11 名出席)

- 議案第 6 号 平成 30 年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支補正予算について
- 議案第 7 号 社会福祉法人大津市社会福祉協議会の時差勤務に関する規則の制定について
- 議案第 8 号 社会福祉法人大津市社会福祉協議会職員育児・介護休業等に関する規則の一部改正について
- 議案第 9 号 第 2 回評議員会の開催について

◆第 4 回理事会 平成 31 年 2 月 8 日 (金) 10:00~11:30 (理事 10 名出席)

- 議案第 10 号 社会福祉法人大津市社会福祉協議会職員給与規程別表の一部改定について
- 議案第 11 号 平成 30 年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支補正予算について
- 議案第 12 号 第 3 回評議員会の開催について

◆第 5 回理事会 平成 31 年 3 月 15 日 (金) 10:00~11:30 (理事 12 名出席)

- 議案第 13 号 平成30年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支補正予算について
- 議案第 14 号 平成 31 年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会事業計画について
- 議案第 15 号 平成 31 年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支予算について
- 議案第 16 号 第 4 回評議員会の開催について
- 議案第 17 号 常務理事の退任について
- 議案第 18 号 第 28 期社会福祉法人大津市社会福祉協議会理事候補の選任について

◆第 6 回理事会 平成 31 年 3 月 28 日 (木) 文書決議

- 議案第 19 号 社会福祉法人大津市社会福祉協議会常務理事選任について

(2) 評議員会の開催 (開催回数 4 回)

◆第 1 回評議員会 平成 30 年 6 月 15 日 (金) 10:00~11:00 (評議員 11 名出席)

- 議案第 1 号 平成 29 年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会事業報告及び決算の承認について
- 議案第 2 号 理事の選任について

◆第2回評議員会 平成30年10月15日(月) 16:00~17:10 (評議員15名出席)
議案第3号 平成30年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支補正予算について

◆第3回評議員会 平成31年2月19日(火) 10:00~11:15 (評議員11名出席)
議案第4号 平成30年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支補正予算について

◆第4回評議員会 平成31年3月26日(火) 10:00~11:00 (評議員13名出席)
議案第5号 平成30年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支補正予算について

(3) 監事会の開催 (開催回数1回)

◆第1回監事会 平成30年5月17日(木) 9:30~ (監事2名出席)
平成29年度 社会福祉法人大津市社会福祉協議会事業報告について
平成29年度 社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支決算報告について

(4) 評議員選任・解任委員会の開催 (開催回数1回)

◆第1回評議員選任・解任委員会の開催 平成30年6月22日(金)9:30~10:20
議案第1号 社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員の補充選任について

(5) 常任理事会の開催 (開催回数4回)

理事会において決議、報告する事項の事前審議を中心に4回開催した。

開催日	開催日
平成30年5月24日(木) 14:30~15:50	平成31年2月1日(金) 9:45~10:45
平成30年9月28日(金) 10:00~11:25	平成31年3月7日(木) 10:00~11:30

(6) 第三者委員会の開催

平成30年7月6日、3名の第三者委員へ苦情案件(4件)の報告を行った。

(7) 賛助会費や寄付金等の自主財源の確保

平成30年度も、学区社協を通じて、一般(戸別)及び特別(個人)会費にご協力をいただいた。また、継続的な財源を確保するためだけでなく、本会の活動を理解し、物心両面で支援をしていただく「賛助会員」の募集を行い、多くの方にご協力をいただいた。

	賛助会員数
平成29年度	253
平成30年度	200

(8) 第5次地域福祉活動計画の推進

第5次大津市社会福祉協議会地域福祉活動計画は、行政の地域福祉計画と一体的に策定したことで、大津市社会福祉審議会地域福祉専門分科会で大津市社協の活動について報告を行った。

回	日時	内容
1	平成30年5月10日(木)	・第5次地域福祉活動計画・第3次地域福祉計画について
2	平成31年3月27日(水)	・第5次地域福祉活動計画、第3次地域福祉計画取り組み状況等報告

3. 活動の目標と具体的事業

本会は、第5次地域福祉活動計画において掲げた基本理念「一人ひとりを認めあい、支えあう、おおらかなまち“大津”」のもと、3つの目標に沿った活動を展開した。

目標1) 多様なネットワークの力で市民のニーズを広く受け止め解決する体制づくり

(1) 情報を必要な人に届ける取り組みの充実

①本当に必要な人の手元まで福祉情報を届ける工夫をします

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
普段、福祉情報にふれることがない人でも、困った時や心配ごとが生じた際に、容易に目的の情報や相談窓口につながるよう、ホームページやSNS、広報紙等による情報提供を行う。	HPをより親しみやすくするべくデザインを一新し、多様な媒体でHPを閲覧できるように改修した。広報紙では、本会の相談窓口ごとの電話番号を掲載し、つなぎやすい広報紙を作成した。	SNSとホームページ、広報紙の3つの広報媒体をそれぞれ見ていただきやすい年代があるので、対象をしばらく市民に情報が届きやすい体制を作る。

主な事業

・大津っ子まつり推進事業

平成30年5月20日に、子育て世代が多く集まる第35回大津っ子まつりに参加。300人の子どもたちがオリジナルフォトフレームを作成した。また、フォトフレームの中にはふれあいフォトコンクールの募集案内を入れ、配布することでアピールを行った。運営にはふわりサロンの方にもご協力いただき、子どもたちと接しながら運営をサポートしていただいた。また、民生委員児童委員やファミリーサポートセンターの啓発活動やボランティア団体による手作りの販売も実施。



親子でオリジナルのフォトフレームを作成



ボランティア団体による手作りの販売

・キャラクター活用事業

1) 「おおつ ひまりん」の活用

おおつ ひまりんは大津市社協の公式キャラクターとして、着ぐるみや名刺の作成のほか、大津市社協の保有する防災用備蓄倉庫「浜大津基地」に描き、大津市社協の広報として活躍している。



着ぐるみ



浜大津基地の様子





子ども・若者総合相談窓口

これからのこと、一緒に考えよう
相談は、ご本人でもご家族でもかまいません。内容に応じて、関係機関と連携しながら、問題解決のお手伝いをします。

受付時間：月～金曜日 9時～17時(祝休日・年末年始を除く)
※相談は予約制ですので事前にご連絡ください。
対象年齢：大津市にお住まいの子ども・若者(15歳～)、ご家族など
専用電話：077-526-5316

大津市ファミリーサポートセンター

12月15日(日)
10:00～12:00
ファミリーサポート
クリスマス交歓会

★おはなし会「ころりん」の人形劇
★「ミスターけんけん」バルーンアートのワークショップ
子育て中の親子の皆さま、子育てに興味をお持ちの皆さま、ファミリーサポートへの入会をお考えの方もお大歓迎です。



第34回 ふれあい フォトコンクール 入賞作品決定



ふれあいフォトコンクールとは
「ふれあい」をテーマとした写真を募集し、人と人とのつながり、人と社会とのつながり、つながりのある地域社会の実現を目指し、実施しています。

トピックス
■災害ボランティアセンター活動報告
■赤い羽根共同募金運動が始まりました

赤い羽根共同募金運動が始まりました 今年で72回を迎えます!

赤い羽根共同募金運動が10月1日から全国で一斉に始まりました。
昨年度は、皆様からの心温まるご協力により、約3,988万円の募金が集まりました。これらは、市内のさまざまな福祉活動に活用されます。

赤い羽根共同募金の使い道
・ひとり暮らしの高齢者に手づくりのお弁当をお届けしています。
・地域で開催しているリオン活動などに活用しています。
・福祉施設や福祉団体が行っている活動に対する助成をしています。

さらに、近年子どもが地域で課題となるなか、学区社会福祉協議会を通じて、子どもを支援する「子ども支援助成事業」を平成29年度から実施しています。

災害ボランティアセンター活動報告

大津市社会福祉協議会では、平成28年4月より災害ボランティアセンターを常設し、平常時から「災害にも強まろう」を推進しています。
災害ボランティアセンターとは、被災者の気持ちに寄り添いながら、災害に関する困りごとと、被災地支援のボランティア活動をつなげる機能をもつセンターのことです。

平成30年7/月豪雨での被災地支援報告
京都府宮津市(7/18)、岡山県倉敷市(8/2)へボランティアSを運行し、被災者支援を行いました。
災害ボランティアセンターとは、被災者の気持ちに寄り添いながら、災害に関する困りごとと、被災地支援のボランティア活動をつなげる機能をもつセンターのことです。

平成29年度 決算報告
Table with columns for 勘定科目, 決算額, 勘定科目, 決算額. Total income: 349,780,352. Total expense: 349,780,352.

交流・ふれあいのWA(輪)をつくりだそう!
もっと安心してくらせるWA(輪)をつくりだそう!
平野学区社会福祉協議会
すこやかコール
平野学区で行なっているすこやかコールは、高齢者世帯やひとり暮らし高齢者など自治会の福祉委員(学区社会福祉協議会)が毎月一週以上高齢者宅を訪問する活動です。

賛助会費にご協力ありがとうございました
名義 レイモンド大津市青北 北田 杉本 杉本 杉本 杉本 杉本
田 崎 高橋 平野 杉本 杉本 杉本 杉本
田 崎 高橋 平野 杉本 杉本 杉本 杉本

出合いのボランティアカフェ開催中!
大津市では、「ボランティアに出会う、仲間に出会う、活動に出会う」をテーマに、出合いのボランティアカフェを開催しています。
ボランティア支援センターに心のあつなり、お茶コーナー好きの方も大歓迎! 誰でも参加できるカフェです。
お気軽にお越し下さい。

総合ふれあい相談
Table with columns for 場所, 月-日, 時間. Locations: 大津市社会福祉協議会, 初瀬公民館, アルファプラザ, 津市市民センター, 津市市民センター, アルファプラザ.

おおつ社協ニュース ひまわり No.156

こんな困りごとと大津市社協へご相談ください。

地域で何かしてみたい
ボランティアをしてみたい

地域住民同士の助け合い活動やボランティア活動など、「地域で何かしたい」という思いを受けとめ一緒に考え、形にするお手伝いをします。

●お問い合わせ先… **地域・ボランティア支援グループ**
TEL:077-526-5336

育児のお手伝いをしてほしい
子どもにかかわるお手伝いがしたい

育児のお手伝いを求める人と、育児のお手伝いができる人が会員となって地域の子育てを応援する相互援助のための会組織です。(1時間:平日¥700・土日祝¥800)

●会員登録… **大津市ファミリーサポートセンター**
お問い合わせ先… TEL:077-511-3150

仕事がなかなか決まらない
家賃・光熱費の支払いに困っている
病気で働けなくなった
子どもの学費で悩んでいる

生活に関するさまざまな悩みごとや困りごとで不安を抱えている方の相談をお聴きし、生活福祉資金の貸付や就労支援など一人ひとりにあった支援と一緒に考えます。

●お問い合わせ先… **自立支援グループ**
TEL:077-526-5754

金銭管理が不安
公的手続きが難しい
福祉サービスの利用方法が分からない

認知症・知的障害・精神障害のある方などで、判断能力が十分な方の支援として、生活費や各種支払いの代行、行政窓口への同行などを行い利用者の権利を守ります。

●お問い合わせ先… **権利擁護支援グループ**
TEL:077-526-5753

人と話をするのが苦手
子どもとどう接したらいいの？
子どもの将来が不安

学校生活や就職のこと、人との関わり方など、暮らしの中での様々な不安をお聴きし、何から始めればいいのか一緒に考えます。本人だけでなく、ご家族の悩みや不安もお聴きします。

●お問い合わせ先… **子ども・若者総合相談窓口**
TEL:077-526-5316

その他、大津市社協へのお問い合わせは、077-525-9316 (代表) まで

社会福祉法人 **大津市社会福祉協議会**
〒520-0047 大津市津大津四丁目1-1 明日都大津5階
でんわ (077)525-9316(代表)
ファックス (077)521-0207
E-mail info@otsu-shakyo.or.jp



おおつ社協ニュース ひまわり No.156

平成31年2月1日
発行 社会福祉法人 大津市社会福祉協議会 大津市津大津四丁目1-1 明日都大津5階 TEL:077-525-9316



第34回ふれあいフォトコンクール入賞作品

トピックス

- ▶ふれあい給食 ふれあいサロン
- ▶大津市社協の相談窓口一挙紹介

ご存知ですか？ 地域の“ふれあい”の輪

ひとり暮らし高齢者へあたたかなお弁当をお届けします。

ふれあい給食

ふれあい給食は、ひとり暮らし高齢者に対して、ボランティアによる手作りの弁当の提供や食生活を助けて、高齢者の生活と健康の向上をはかることと、「食育」や「地域課題」を学ぶの場です。

利用されている方は、手紙などあたたかなお弁当を喜ばしにされています。

※大津市内では、25学区で実施されていて、対象となる方は学区によって違いがあります。

調理ボランティアの声

参加するといろいろな料理が学べて楽しいです。達成感があります。

ふれあい給食の様子

体が悪いので弁当を届けてもらいたいと届かれています。民生委員さんとお話ができることも楽しみにしています。

ふれあい給食の様子

歩いて行ける地域の居場所 ふれあいサロン

ふれあいサロン(以下、サロン)は、地域の長寿づくしの1つで、地域の自治会や公民館など、歩いて行ける距離で気軽に集まれる場として実施されています。

大津市内には、200カ所を超えるサロンがあり、実施されている内容は、おしゃべりや健康体操、お茶会などで地域住民の関心も高まり、やがて「居場所」などの効果が期待されています。

ふれあいサロンに参加したい、申込に当たってほしいなどお気軽にご相談ください。

お参加者の声

- サロンに参加するだけ外に出かけるようになり、元気になりました。
- 参加すると楽しくいろいろなお話と出逢えるのでサロンの開催を楽しみにしています。

お聴いて(スタッフ)の声

- 来てくれる方々の元気な姿を見るのがうれしです。
- 人のためと思ってボランティアをしていますが、結果、自分のためにもなりました。

◆このページに関するお問い合わせは、大津市社協(地域・ボランティア支援グループ)まで
TEL:077-526-5336

滋賀学区社会福祉協議会

つながるより支えあおうみんなが主役の道のまち

滋賀学区社会福祉協議会(以下、滋賀学区社協)は、滋賀県内各市町村の社会福祉協議会が連携して、行政機関や民間企業、NPO・NGOなどと協力し、地域課題の解決や福祉サービスの向上に取り組んでいます。

滋賀学区社協では、地域課題の解決や福祉サービスの向上に取り組んでいます。地域課題の解決や福祉サービスの向上に取り組んでいます。

滋賀支所を配布しています!

総合ふれあい相談

時間	曜日	時間
11:00-12:00	月	9:00-17:00
13:00-14:00	火	
15:00-16:00	水	
9:00-17:00	木	
13:00-14:00	金	
15:00-16:00	土	
9:00-17:00	日	
13:00-14:00	月	
15:00-16:00	火	
9:00-17:00	水	
13:00-14:00	木	
15:00-16:00	金	
9:00-17:00	土	
13:00-14:00	日	

※平成31年4月より、介護保険、アルzheimer症の相談窓口を変更します。

平成31年度 ボランティア保険 受付開始

◆ボランティア活動保険
ボランティア活動中(災害ボランティア含む)の事故による怪我や賠償責任に対応する保険です。保険料と補償は平成30年度と変更ありません。

保険料	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	350円	510円
天災タイプ	500円	710円

その他
◆ボランティア行事用保険や福祉サービス総合補償の受付も行っていきます。
詳しくは、大津市社協(地域・ボランティア支援グループ)まで
TEL:077-526-5336

募金箱設置にご協力ありがとうございました

お礼状を郵送させていただきます。

団体名	金額
滋賀学区社会福祉協議会	10,000円
大津市社会福祉協議会	5,000円
...	...

ひまわり特集号の発行



ホームページのリニューアル

本会のホームページを市民にとって分かりやすくし、タブレットやスマートフォンなどの多様な端末で閲覧できるホームページとした。



パソコンから見たホームページ



スマートフォンから見たホームページ

・ SNS を利用した広報活動

Facebook、Twitter を活用した、広報活動を実施した。

(2) 市民が気軽に相談できる体制づくりとより積極的なニーズの把握

①地域に出向き課題の掘り起こし（アウトリーチと地域アセスメント）に努めます

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
コミュニティソーシャルワーカーや生活支援コーディネーター等が支援につながりにくいさまざまな生活課題を受け止めるとともに、アウトリーチによる地域のニーズ把握に努める。	学区ごとに地域アセスメントシートを作成し、社会資源や地域ニーズの再確認を行った。	グループ間連携を通じて、制度のはざまの新たな仕組みの創出や対象者の拡大を図る。

②相談機関、関係機関との連携の強化を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
初期相談からスムーズに支援へつながるよう、担当職員同士の情報共有をきめ細かく行うとともに、相談機関や関係機関の連携強化を図る。	相談機関連絡会と精神保健福祉部会を一体的に隔月に開催することで、多くの関係者が一堂に集まり、グループワークを通して顔の見える関係づくりが進んだ。	関係機関の連携によって、ワンストップの相談支援体制を構築することが必要ですので、引き続き連携を進める。

主な事業

・生活困窮者自立支援制度にかかる事業

1) 事業の目的

生活困窮者が困窮状態から早期に脱却することを支援するため、本人の状態に応じた包括的かつ継続的な相談支援等を実施するとともに、地域における自立・就労支援等の体制を構築することを目的としている。

2) 実施主体

大津市（大津市より受託）

3) 事業の概要

①自立相談支援事業【必須事業】

→ 生活困窮者の課題の把握、支援計画を踏まえた包括的な支援、地域のネットワークづくり等を実施した。

②子どもの学習支援事業【任意事業】

→ 夏休み等の子どもたちの学習機会の提供及び居場所づくり「寺子屋プロジェクト」を実施した。

夕方から夜の子どもたちの居場所づくり「トワイライトステイ」を実施した。

4) 事業実績

①自立相談支援事業（必須事業）

ア) 初期対応状況

新規相談 受付者数	内訳			
	継続支援し、 プラン策定	情報提供・ 相談のみ	他制度・他機関 等へのつなぎ	本人の同意に向 けて取り組む
421	90	96	206	29

イ) 相談内容・困りごと ※複数選択あり

生活費の収入	税金・公共料金の支払い	家賃・ローンの支払い	住まいのこと	就職について	仕事探し・仕事探しのこと	病気・健康障害のこと	債務について	食べないもの	家族との関係	介護のこと	仕事の不安 トラブル	子育て	DV 虐待	ひきこもり 不登校	地域との関係	その他
232	139	87	72	69	65	47	36	29	20	18	87	5	3	2	72	

※その他は、主に貸付に関する相談

ウ) 新規相談受付のうちプラン作成による月別支援状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談受付件数		33	39	31	35	39	31	40	29	34	44	35	31	421
支援決定・確認件数 (再プラン含む)		11	16	5	9	12	4	10	13	12	8	19	7	126
うち	支援決定あり	2	1	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	7
事業等利用 法に基づく	住居確保給付金	1	1	1	0	2	0	0	1	1	1	2	1	11
	一時生活支援事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	家計相談支援事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	就労準備支援事業	2	1	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	7
	認定就労訓練事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自立相談支援事業 による就労支援	10	8	3	6	7	2	6	5	8	3	13	4	75
その他	生活福祉資金 による貸付	1	1	1	1	3	0	0	3	3	2	3	0	18
	生活保護受給者等 就労自立促進事業	9	7	2	5	7	2	6	5	7	3	10	4	67
就労支援対象者数 (プラン期間中の一般就労を目標としている)		11	7	3	7	8	3	6	5	9	3	13	4	79
就労者数(プラン作成)		5	6	5	6	2	0	5	9	3	7	11	11	70
増収者数(プラン作成)		0	1	0	0	1	0	0	2	0	2	2	2	10
就労者数(プラン作成以外)		1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
増収者数(プラン作成以外)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※プラン内容は、プランの段階での利用予定であり、実際利用された件数とは異なる場合がある。

エ) 評価結果の状況

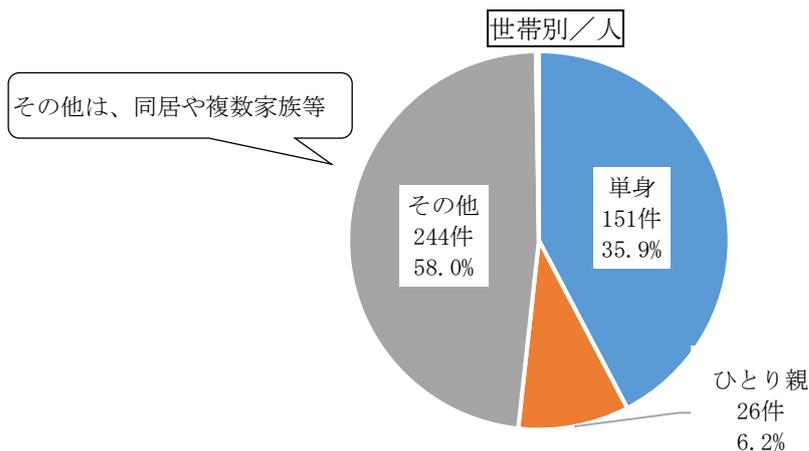
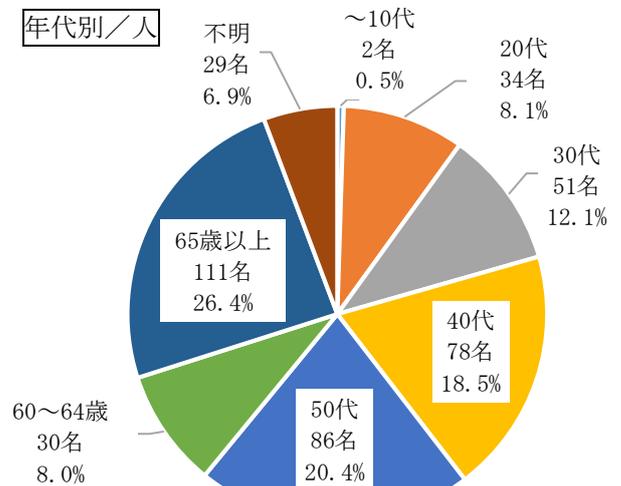
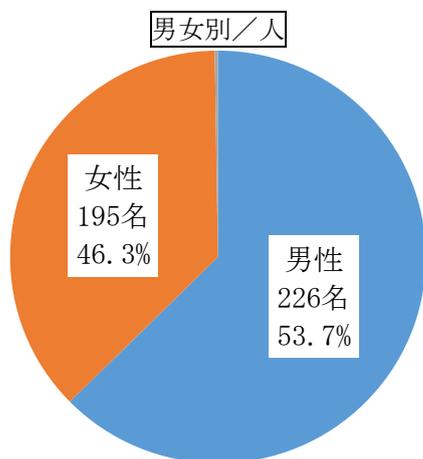
今年度、評価を実施した178人のうち変化が見られた人は、171人で、評価実施件数中、一般就労を目標としている人は、112人で、うち66人が一般就労を開始した。支援により見られた変化では、税金や保険料、各種公共料金の滞納を返還、消費者金融等からの負債の清算による家計の改善が多く見られた。

また、評価2では、家賃滞納や住宅ローンの返済が困難となり住居を喪失してしまうおそれがある人に、住居支援を伴走して実施したことで、住居が確保でき、再び、安心した生活を送ることができるようになった。また、医療費の捻出が困難となり病院に罹ることができなかつた人が、無料定額診療等を利用し、医療機関を受診することができるようになり、健康状態も回復したことで生活状況の改善を図ることに尽力するなど、意欲が向上した。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
評価実施件数(再プラン含む)		10	11	15	8	11	3	14	16	9	14	28	39	178
評価結果	終結	8	7	14	5	10	3	8	11	7	11	24	33	141
	再プランして継続	2	4	1	3	1	0	6	5	2	3	4	6	37
	中断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
見られた変化	変化あり	10	11	14	8	10	3	14	16	9	13	28	35	171
	変化なし	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	4	7
評価実施件数中、一般就労を目標		8	7	9	6	5	1	11	12	4	10	17	22	112
うち	一般就労開始を達成	5	4	5	6	2	0	5	8	3	7	11	10	66
支援継続中ケース数		176	176	160	162	156	156	155	150	151	151	134	103	—

見られた変化の内訳 ※複数評価あり

評価1										評価2										
生活保護適用	家計の改善	債務の整理	就労収入増加	就労開始(一般就労)	就労開始(中間的就労)	職場定着	就職活動開始	職業訓練の開始、就学	医療機関診断開始	健康状態の改善	障害手帳取得	住まいの確保・安定	社会参加機会の増加	生活習慣の改善	家族関係の改善	対人関係・向上・改善	自立意欲の向上	孤立の解消	精神の安定	その他
16	59	21	10	70	0	41	26	1	19	19	3	29	12	12	12	22	5	19	18	



オ) 相談経路

取納関係課	相談履歴あり	家族・知人・近所・職場	生活保護担当課	ホームページ・看板 チラシ等を見て	民生委員児童委員・学区社協	あんしん長寿相談所・ すこやか相談相談所	病院	介護事業所・福祉施設	子ども家庭課・子家庭	ハローワーク・就ステ・サポステ	市社協ふれあい相談・権利擁護	法テラス・弁護士・司法書士	市役所 総合案内	障害者支援事業所	一般企業・金融機関	保健所・精神医療センター	学校	議員(市議・県議)	県社協・他市社協	その他行政機関	その他	合計
76	51	51	43	43	15	14	10	10	8	8	8	7	6	5	5	3	3	4	2	37	12	421

カ) 自立相談支援における就労支援状況

就労は生活の基盤であり、就労支援は、生活再建への有効な手立てのひとつである。ハローワーク、就労支援ステーション「ステップアップおおつ」と連携し、早期就職に向けた支援を実施した。

下記は、大津市社協が、独自に今年度の就労対象者（前年度からの継続者含む）と就労者・増収者を集計したものである。65歳を超えても就労を希望される方が増えており、地域や社会での役割や出番は、生きがいや喜び、生活の質の向上につながった。

就労支援対象者	就労者数 (プランあり)	増収者数 (プランあり)	就労者数 (プランなし)	就職・増収 者数累計	就労支援 ステーション 利用者数	就労・増収 者率
157 (77)	47 (27)	6 (1)	3	42 (28)	53	52.2%

(自立相談支援における就労支援状況)

※就労支援対象者の()は、前年度からの継続者

※就職・増収者の()は、前年度に就職・増収し今年度もプラン継続中の者

今年度の就労支援対象者 80人のうち就労支援ステーション「ステップアップおおつ」を利用された方は、53人(66.3%)であり、就労支援ナビゲーターと連携しながら、就労支援と生活支援を平行して実施していくことが就労率の向上につながった。

キ) ふわりサロンの開催

「日常生活自立」「社会生活自立」そして、「孤立からの脱却」を目指して、ゆるやかな居場所として当事者サロンを実施した。

定例会 12回(毎月1回)

(うちステップアップ勉強会3回)

地域ボランティア活動 3回

イベントへの参加 3回

(参加人数延べ: 102名)

会議・イベント 実施日		内容		会場	時間	人数
4月11日	水	定例	・H30年度活動計画 ・レクリエーション 「ジャンボ麻雀」	中会議室	10:00~12:00	6名
5月9日	水	定例	・皇子山公園散策	大会議室	10:00~12:00	7名
5月20日	日	イベント	・大津っ子まつり	皇子が丘公園	10:00~15:00	2名
6月13日	水	定例	・外来魚駆除 ・おにぎり昼食会	中会議室	10:00~12:00	9名
7月11日	水	定例	・セルフケアセミナー 長崎講師	中会議室	10:00~12:00	18名
8月8日	水	定例	・共同募金資材作業 ・お坊さんめぐり大会:百人一首作り	中会議室	10:00~12:00	7名
9月12日	水	定例	・防災講座 災害ボランティアセンター高山講師	大会議室	10:00~12:00	12名
10月10日	水	定例	・浜大津フリーマーケット準備	大会議室	10:00~12:00	8名
10月21日	日	イベント	・浜大津フリーマーケット販売	明日都浜大津	9:00~14:00	3名
11月14日	水	定例	・県警本部見学	大会議室	10:00~12:00	7名
12月12日	水	定例	・クリスマスカード作り	大会議室	10:00~12:00	5名
1月9日	水	定例	・コミュニケーション麻雀とぜんざいの食事会	視聴覚室	10:00~12:00	3名
1月27日	日	イベント	・市民ヨシ刈り	琵琶湖岸 ヨシ群生地 (雄琴)	9:00~10:30	2名
2月13日	水	定例	・切り貼りワークでコラージュ自己分析してみよう!	大会議室	10:00~12:00	6名
3月13日	水	定例	・はじめての家計講座 大津市社協 山崎講師	大会議室	10:00~12:00	7名



「新緑のマイナスイオンを感じながらウォーキング」



フリーマーケット準備作業



「浜大津健康フェスタ 2018
フリーマーケット」



ステップアップ勉強会
「はじめての家計講座」



「雑誌切り貼りワークでコラージュ作り」



「子どもの学習支援事業との
コラボ企画」
「クリスマスカードの作成」

・総合ふれあい相談事業

新規の相談件数は減少しているが、継続的な相談が増えている。昨年度に引き続き障害を持った方あるいは家族の方の相談が目立った。また、財産分与や離婚問題、近隣の複雑なトラブルなど法的知識が必要なケースも多く、このような相談は弁護士・司法書士等への専門相談につないだ。

平成30年度も引き続き、総合ふれあい相談の開催場所、日程を周知することを目的に、「総合ふれあい相談ポスター」を作成し、市内各市民センター、関係機関にポスター、チラシを配布した。また、「広報おおつ」毎月1日号にも掲載しており、身近な市民の相談所として定着した。

3月には相談員研修を開催し、各相談所での情報共有、事例を元に話し合いを行った。参加者：84名（相談員90名中）

また、平成29年度の研修会で志賀ブロック、北部ブロックでの開催場所について多くの意見が出され、平成30年度に検討し、平成31年度からは開催場所を変更し実施することになった。

和邇公民館 ⇒ 木戸市民センター
 堅田アル・プラザ ⇒ 堅田市民センター

- 1) 相談体制 常設相談 相談員1名（相談員3名が交代で対応）
 各ふれあい相談所 相談員2名（相談員93名が交代で対応）

2) 相談者数

	新規	継続	合計
平成28年度	541	1,547	2,088
平成29年度	542	1,672	2,214
平成30年度	404	1,755	2,159

3) 相談内容（延べ件数）2,565件（平成29年度2,938件）

	相談内容区分																				合計			
	生計・多重債務	年金	職業・生業	住宅	家族	結婚・離婚	権利擁護・後見	健康・保健・衛生	医療	人権・法律	財産・遺言	事故	児童福祉・虐待	教育・青少年	障害者福祉・虐待	母子父子福祉	高齢者福祉・虐待	近隣トラブル	悪質業者・消費生活	自殺願望		苦情	問い合わせ	その他
新規	63	6	22	35	59	11	8	30	16	20	25	5	1	7	24	2	30	37	2	1	23	81	31	539
継続	91	5	64	57	145	19	6	65	46	19	28	6	4	30	1,178	1	36	39	0	5	34	34	114	2,026
合計	154	11	86	92	204	30	14	95	62	39	53	11	5	37	1,202	3	66	76	2	6	57	115	145	2,565

相談員研修会の様子

4) 相談方法

ふれあい相談（事務局）			
相談方法	新規	継続	合計
電話	277	689	966
来所	83	157	240
訪問	7	28	35
その他	2	874	876
事務局相談 合計	369	1,748	2,117



ブロックごとに自己紹介、各相談所の準備などの共有

ふれあい相談（出先）				
相談方法		新規	継続	合計
来所		35	7	42
相談所別	和邇公民館	6	0	6
	アルプラザ堅田	7	0	7
	坂本市民センター	0	4	4
	逢坂市民センター	7	0	7
	晴嵐市民センター	3	0	3
	南郷市民センター	6	1	7
	アルプラザ瀬田	6	2	8
出先相談 合計		35	7	42



ブロックごとに事例を元に話し合い

・相談機関連絡会の開催

近年、相談機能を有する各機関では社会経済情勢を反映して、相談内容が複雑・多様化しており、深刻な内容が多くなっている。

こうした状況に対応すべく、相談機関連絡会は平成5年から、精神保健福祉部会は平成7年から「機関相互の連絡と情報・意見の交換や共有」を目的に始まった。

今年度は相談機関連絡会と精神保健福祉部会を統合し、より多くの関係機関がつながっていけるよう実施方法を見直した。参加機関は70機関にのぼり、担当者同士の積極的な連携の場として活用され、各関係機関の横のつながりをより深めることができた。

効果：各相談員が、日頃から顔の見える関係づくりを進め、専門職が困ったときお互いに助け合えるネットワークと、「助けて」といえる関係づくりが進んだ。

1) 相談機関連絡会（70機関）

回	日時	場所	参加人数	内容
1	4月23日(月)13:30~15:30	中会議室	33名	自己紹介・相談事例
2	6月29日(金)13:30~15:30	大会議室	31名	近況報告 グループディスカッション
3	9月6日(木)13:30~15:30	大会議室	19名	近況報告 グループディスカッション
4	11月1日(木)13:30~15:30	ホール	30名	近況報告 グループディスカッション
5	1月18日(金)13:30~15:30	大会議室	19名	近況報告 グループディスカッション
6	3月5日(火)13:30~15:30	大会議室	10名	近況報告 グループディスカッション

合計 142名



・法外援護及び扶助事業、福祉資金貸付事業、生活福祉資金貸付事業

本会に寄せられる生活困窮の相談は年々増加している。失業や病気などに伴う生活費の相談をはじめ、子どもの進学費用、家賃の滞納、ライフラインの停止、食べるものが無いといった相談が、日々寄せられた。こうした相談の解決方法として、生活福祉資金の貸付、法外援護及び扶助事業を実施しながら、関係機関と連携して相談業務を進めた。

1) 法外援護及び法外扶助事業（本会取り扱い分）

やむを得ない事情で生活困窮に陥った低所得世帯を、緊急的な一時支援として法外援護費を給付した。また、給付に伴い、生活再建にむけた自立支援を「生活困窮者自立支援事業」と一体的に行った。

所持金の紛失などにより援護を求めた方には、最低限度額の旅費等を法外扶助費として支給した。

法外援護費	14 件	220,340 円
法外扶助費	42 件	10,200 円（旅費等）

※上記のほか、学区社協では、独自に法外援護として貸付けを実施。

2) 市社協福祉資金

一時的な生活つなぎ資金として、福祉資金の貸付事業がある。平成 21 年度以降は、県社協の生活福祉資金の緊急小口資金の創設を機に、本資金の利用実績はない。

平成 30 年度からは要綱を変更し新たに、市営住宅入居当選者の方への、市税、社会保険料の滞納分貸付を開始した。

3) 生活福祉資金の貸付

平成 30 年度の相談件数

新規相談	継続相談	合計
212	949	1,161

月平均約 100 件の相談を受けた。
なかでも、秋から春にかけては、進学・入学に際しての貸付相談が多いのが特徴である。
貸付対象でない相談については、ふれあい相談や生活困窮者自立支援事業の相談で、継続的に相談対応した。

貸付決定件数

	貸付決定	貸付総額
福祉資金	15 件	5,797,000 円
教育支援資金	21 件	35,612,000 円
総合支援資金	0 件	0 円
緊急小口資金	12 件	1,084,000 円
不動産担保型生活資金	2 件	0 円

平成 30 年度は、母子世帯や生活保護世帯からの、教育支援資金貸付の申し込みが多かった。

合計 50 件

・ 顧問弁護士による相談事業

本会では、平成 15 年度より、顧問弁護士に、助言・指導をいただいている。平成 30 年度は月 2 回、計 24 回の弁護士相談を実施した。

顧問弁護士：土井法律事務所（土井裕明・黒田啓介・堀田直美弁護士）

困難事例については、相談者を交えて相談会を開催した。

相談件数は 80 件（平成 29 年度 70 件）となった。

また、相談は述べ 136 件（重複した相談を含む）となった。

平成 30 年度 顧問弁護士の相談件数

相談内容	件数	相談内容	件数	相談内容	件数
生計・多重債務	31 件	事故	2 件	医療	1 件
財産・遺言	17 件	権利擁護・後見	6 件	苦情	1 件
結婚・離婚	6 件	健康・保健・衛生	2 件	母子父子福祉	0 件

人権・法律	20件	障がい者福祉・虐待	5件	教育・青少年	0件
近隣トラブル	5件	職業・生業	4件	年金	0件
家族	15件	高齢者福祉・虐待	1件	児童福祉・虐待	0件
住宅	15件	悪徳業者・消費生活	1件	その他	10件

合計 136件

・顧問司法書士による相談事業

本会では、小額の借金や住宅の相談など、家計再建にかかる法律的な支援を必要とする相談が増加したことから、平成26年度より司法書士と顧問契約を締結し、きめ細かい相談事業を展開した。

顧問司法書士：ばてん司法書士事務所 馬殿貞爾司法書士

相談集計は、40件（平成29年度83件）となっており、市社協で実施している各相談事業の強い後ろ盾となった。

平成30年度 顧問司法書士の相談件数

相談事業名	相談内容	件数
生活困窮者自立支援事業	多重債務、借金・ローンの整理など	28件
地域福祉権利擁護事業	相続、財産分与に関する諸手続きなど	11件
総合ふれあい相談事業	各種契約に関すること、遺言など	1件
その他		0件

合計 40件

・大津市子ども・若者総合相談窓口業務

平成29年10月1日から大津市の委託を受け、子ども・若者総合相談窓口を開設した。本人はもちろん、ご家族の悩みや不安もお聞きし、学校生活や就職のこと、人との関わり方など、くらしの中で様々な不安や悩みを聞き、一緒に考える姿勢で相談窓口を実施した。

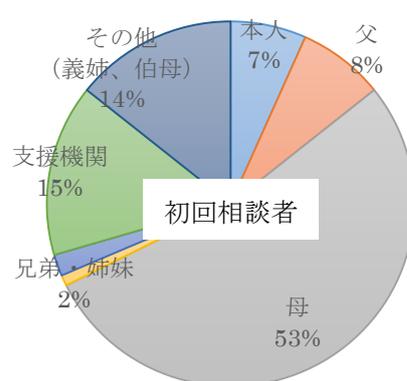
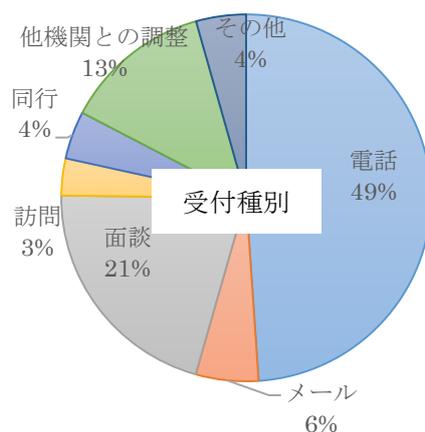
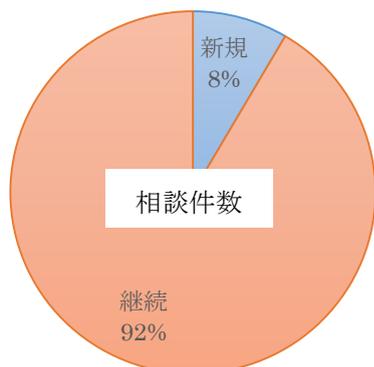
窓口開設から一年半が経過し、電話や面談以外に、同行支援や訪問といった支援内容もあり、窓口求められる対応の幅が広がっている。今後は相談事例から見える課題を地域や行政、関係機関に積極的に発信し、子ども・若者への支援の仕組みづくりを目指す。

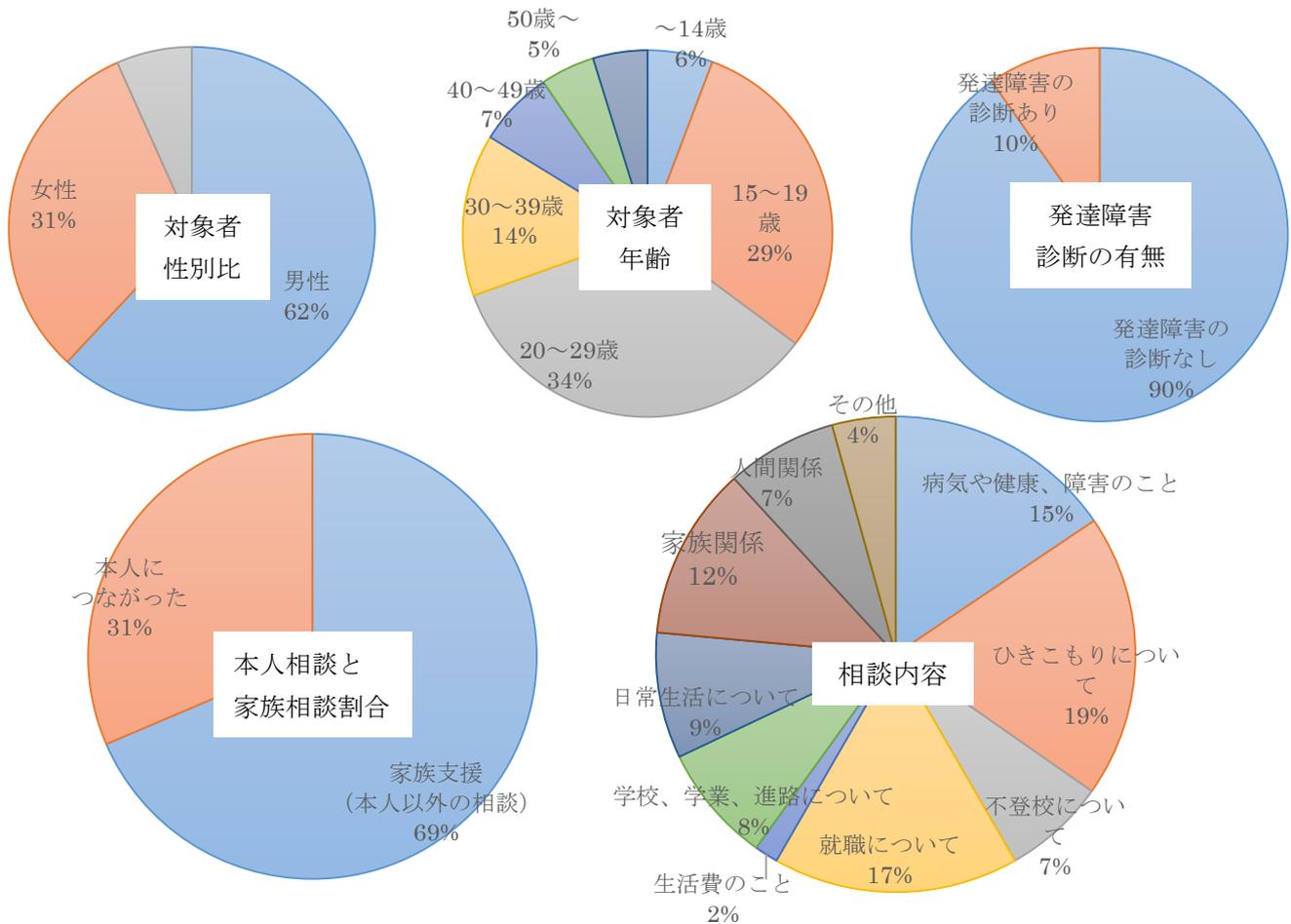
相談体制：3名の相談員を配置

支援内容：電話相談、面談、同行、訪問など

相談件数（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	11	8	12	10	7	8	10	6	9	7	11	9	105
継続	76	71	66	70	83	76	118	109	118	118	122	111	1138
合計	87	79	78	80	90	84	128	115	127	125	133	117	1243





・寝具丸洗いサービス事業

大津市内に在住し、日常生活を営む上で支障のある（とりわけ布団の清掃維持の困難な）65歳以上のねたきり・認知症の高齢者に対して日常生活の援助及び、環境の改善を目的として、平成13年度より、大津市からの受託事業として実施している。

民生委員児童委員からは、「布団がふっくらして嬉しい」「安心して利用できて助かる」などの利用者の声を届けていただいた。

※利用料 1枚につき400円（羽毛布団は1枚につき600円1人2枚まで実施）

1) 寝具丸洗いサービス事業実施状況表

	実施件数 (人)	実施枚数 (枚)					代替布団 (枚)	
		敷布団		掛布団		計	敷布団	掛布団
		羽毛	羽毛以外	羽毛	羽毛以外			
平成28年度	269	5	167	181	130	483	31	8
平成29年度	227	7	157	142	111	417	38	19
平成30年度	252	10	158	163	129	460	37	24

・大津市高齢者等地域見守りネットワーク事業

1) 目的

地域をフィールドに活動する企業・団体と見守りネットワークを構築し、異変等を発見した際に迅速に対応できる体制を確保することにより、高齢者等が住み慣れた地域で安心した生活を送れるよう支援する。

2) 内容

協定締結事業所が日常業務、営業活動の中で「普段と様子が違う」「おかしい」「ちょっと心配」などの異変を感じた場合、代表窓口となる本会に連絡いただくと、市民生委員児童委員協議会連合会など関係機関と連携し、支援を行う。ただし、受付時間は平日午前9時から午後5時までとし、休日や緊急を要する場合は事業者より警察、消防等へ通報した後、本会へ連絡をいただいている。

3) 事業主体

社会福祉法人大津市社会福祉協議会
大津市民生委員児童委員協議会連合会
大津市
市内事業所

協定事業所からは、「ネットワークによりSOSの連絡先が明確になり、安心です」との声をいただいている。

4) 見守りネットワーク協定締結事業所

	事業所	締結日
1	読売販売店大津地区販売店17店舗	平成26年5月23日
2	明治安田生命保険相互会社 滋賀支店	平成27年2月1日
3	ヤマト運輸株式会社 滋賀主管支店	平成27年3月27日
4	大津市企業局	平成27年4月1日
5	布亀株式会社	平成27年6月22日
6	株式会社プロテクト (サンライズ坂本・移動スーパーとくし丸)	平成27年12月22日
7	京滋ヤクルト販売株式会社	平成28年8月1日
8	京都新聞滋賀県専売会大津ブロック	平成29年2月1日
9	レーク大津農業協同組合	平成29年3月28日
10	生活協同組合コープしが	平成29年11月16日
11	ワタミ株式会社	平成30年10月1日
12	大津市コンビニエンスストア協会	平成30年11月15日
13	公益社団法人 大津市シルバー人材センター	平成30年12月21日
14	株式会社 大津衛生社	平成31年3月5日

5) 活動状況

①連絡件数：8件

②活動内容（抜粋）

日時：平成30年4月5日

事業所：読売新聞

内容：「4月に入ってから新聞が溜まっている」

⇒ネットワーク台帳から緊急連絡先の親族の方に連絡がつながる。親族宅にいらっしゃることが判明。無事を確認した。

日 時：平成 30 年 4 月 13 日

事業所：コープしが

内 容：「指定時間に訪問するが不在。雨戸は開けたままで、本人宅に電話するも家の中で鳴っているだけで誰も出てこられず、少し心配。」

⇒ネットワーク台帳には掲載なし。コープしがから時間を空けて何度か連絡をしていただくも、不在。市社協職員が本人宅へ向かったところ、ちょうど本人が帰宅され、無事を確認。

6) 協定事業所情報交換会

日 時：平成 30 年 11 月 29 日

事業所：布亀、移動スーパーとくし丸、JA、コープ、ヤマト運輸、企業局、民児協連会長、長寿政策課、市社協

内 容：各事業所の見守りの現状や、困りごとなどを共有。併せて情報公表システムの協力を依頼。

・いのちのバトン推進事業

1) 事業目的

本事業は、救急医療情報キット「いのちのバトン」の配布を通して、救急時に役立てるとともに、健康面やひとりであることに不安を抱えながら在宅生活を送る方の安心感の確保や、学区社協を中心に小地域において声掛け、訪問活動の促進及び地域のつながりづくりによる地域福祉の充実を図ることを目的としている。

2) 事業実施主体

学区社協が主体となって学区内の実情に応じて、地区民児協・学区自治連合会等の関係機関・団体と協働して取り組んでいる。

3) バトンの配布先

75 歳以上の独居高齢者世帯を基準に、学区の実情に応じて、年齢等の条件設定をしていただき配布した。

4) 配布本数

856 本（平成 30 年度）

56,012 本（累計）

5) 救急隊の活用件数

4 件（平成 30 年度）

63 件（累計）

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
12 件	12 件	6 件	3 件	4 件

6)

救急隊の活用事例

- ・家族の連絡先を確認。
- ・既往症の確認。
- ・先着した消防隊がいのちのバトンで本人確認。迅速な情報収集ができた。

(3) 相談を受け止め、対応する力の向上

①地域の中での相談力の向上を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
困りごとを抱えた方の「SOS」を身近な地域でいち早くキャッチすることができるよう、民生委員児童委員を対象にした相談活動セミナーのほか、傾聴ボランティア講座、福祉委員の研修等を通じて、地域の中での相談力の向上を図る。	相談活動セミナーでは、初級セミナーで69名修了し中級へステップアップ。中級セミナーでは92名が修了し、ふれあい相談員へ推薦。 傾聴ボランティア講座は23名が修了し、4名が傾聴ボランティアグループに登録された。	相談活動セミナーの初級・中級セミナーを引き続き開催します。 傾聴ボランティア講座の継続実施。 福祉委員の学区別研修会を継続支援する。

主な事業

・傾聴ボランティア講座の開催

高齢者に寄り添ってお話を聴く「傾聴ボランティア」を養成するとともに、ボランティア活動に必要な「コミュニケーション力=聴くこと」の大切さや、「聴き方」の基本を研修や実践をとおして学んでいただいた。

日時及び会場		内 容	講 師
講義 ①	平成30年8月1日(水) 13:30-16:00 明日都浜大津4階ホール	話し方・笑顔のつくり方 ～第一印象の大切さや 話し方の基本～	講師：話し方・マナーアドバイザー 安部田 幸子 氏
講義 ②	平成30年8月25日(土) 13:30-16:00 明日都浜大津4階ホール	傾聴とは ～実践に役立つ演習～	講師：龍谷大学非常勤講師 扇田 宗親 氏
講義 ③	平成30年9月1日-13日 の内の10日間	福祉施設での実践研修	市内高齢者福祉施設及び デイサービスセンターなど11施設
講義 ④	平成30年9月22日(土) 13:30-16:00 明日都浜大津4階ホール	寄り添うとは ～自分も相手も 大切にする～	講師：龍谷大学非常勤講師 扇田 宗親 氏

受講者：22名（修了者）



安部田氏講演の様子



扇田氏講演の様子

・民生委員児童委員の相談セミナーの開催支援

大津市民生委員児童委員協議会連合会が主催する相談活動セミナー（初級・中級）の開催を支援した。初級は相談活動の基本を学ぶこととし、中級は、初級を修了した民生委員児童委員を対象に、総合ふれあい相談所の相談員の養成も兼ねて、具体的な事例を検討する内容で開催した。

初級	日 時	内 容	講 師	参加者
1	5月24日	「ひとりで抱え込まないために」	市民児協連 参与 一色 誠三 氏	68名

2	6月28日	「法律相談との連携」	土井法律事務所 弁護士 土井 裕明 氏	72名
3	7月18日	「子育て支援について」	大津市子ども家庭相談室 相談員 中島 円実 氏	57名
4	8月20日	「あんしん長寿相談所との連携」	あんしん長寿相談所 社会福祉士	58名
5	9月25日	「話を聴くということ」	介護支援専門員 扇田 宗親 氏	53名
6	10月15日	「相談・面接の進め方」	大津市社会福祉協議会 地域福祉課長 山口 浩次	55名
中級	日 時	内 容	講 師	参加者
1	5月24日	「相談面接の技術」	社会福祉士 松村 裕美 氏	81名
2	6月28日	「アディクション(依存症)について」	滋賀県断酒同友会 会長 西浦 正 氏	90名
3	7月18日	「心のトラブル・心の健康」	精神保健福祉士 奥田 由子 氏	90名
4	8月20日	「総合ふれあい相談」の活動について	大津市社会福祉協議会 地域福祉課長 山口 浩次	76名

・ 総合ふれあい相談所相談員研修の開催

日 程 平成 31 年 3 月 26 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 00
 会 場 ふれあいプラザ 4 階ホール
 参加者 84 名 (90 名中)
 内 容 総合ふれあい相談活動について、
 相談員の手引き、事例紹介ほか

平成 31 年度に相談員として出務していただく方に対して、相談所ごとのグループにわかれ相談員同士の顔合わせと、各相談場所の準備等について共有していただき、後半は手引書や事例を使いながら、より相談の現場で役立つ研修を開催した。



相談所ごとに着席・事例検討



(4) コーディネーション力の高い専門職の充実

①コミュニティソーシャルワーカー、ボランティアコーディネーター、生活支援コーディネーター等の充実と質の向上を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
コミュニティソーシャルワーカーやボランティアコーディネーター、生活支援コーディネーター等のコーディネーション力が向上するよう、研修等を充実する。	月 1 回の地域福祉勉強会を通して、大津市社協版 CSW の定義、地域アセスメントシートの作成、活動が見える化した報告書の検討を行った。	事例検討などを通じて、実践に活用できる学びを深める。

主な事業

・CSW 7名の配置。個別支援と地域支援活動を担当

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）は、地域において、支援を必要とする人々の生活圏や人間関係等の環境面を重視した援助を行うとともに、地域を基盤とする支援活動を発見・開発して支援を必要とする人につなぎ、家族や地域住民、公的制度との関係を調整する地域福祉の専門職員である。

1) コミュニティソーシャルワーカー相談件数 (延べ件数)

相談内容	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
市社会福祉協議会関連	453	446	604
学区社会福祉協議会関連	808	1174	955
民児協関連	1935	1532	56
心配ごと相談 (高齢・障害・病気・孤立・地域)	1461	2718	3784
生活困窮・学習支援 (子ども・ひとり親・困窮)	867	1090	860
その他	201	412	248
合計	5,725	7,524	8,243

コミュニティソーシャルワーカー配置人数 (人)

年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
配置人数 (累計)	5	6	7

2) 活動状況

①個別支援と地域支援

1 人の困りごとは地域の困りごととらえ、その人が地域で居場所を見つけて、その人らしく過ごせることを目指して相談支援を実施した。また、個別の課題を地域の普遍的な課題と捉え、その課題について地域で支援する仕組みづくりを意識して活動を行った。

②関係機関との連絡調整

複合的な問題が絡み合う課題に対しては、様々な支援者が関わりながら対応することが必要である。個々の問題それぞれの対応に適した機関につなぐこと、その機関同士がつながるよう連絡調整を図る役割を担った。

③ブロック担当者連絡会議の開催

CSWは、市内7ブロックにそれぞれ分かれて配置されていることから、月に1度、各担当の活動や課題を共有し、協議する場を設けた（ブロック担当者会議）。

他のブロックの取り組みを知り、参考にすることが、各担当ブロックの活動の充実化につながった。

また、CSW全員で課題を共有し多角的に検討することが、より良い支援や、各CSWのコーディネーション力の向上につながった。

④地域支援勉強会の開催

CSWの技術及び質の向上、さらには地域福祉の推進を目的として、大学の研究者と業務委託契約を交わし、月に1度、「地域支援勉強会」を開催し、以下の成果を得た。

- ・大津市社協版CSWの定義を協議しながら定めることで、目指すべき方向性をチームで共有することができた。

- ・「大津市社協版地域アセスメントシート」を、アセスメント項目を検討するところから始め、全小学校区分を作成した。
- ・平成30年度のCSWの実践を取りまとめたリーフレットを作成した。リーフレットを市社協内で共有することでCSWの活動の理解が深まり、今後の部門間連携につながる。

・業務検討会等職員研修会の実施

専任講師による、職員を対象にした体系的な研修会を実施した。

	研修会内容	対象者
1	入社導入研修	新任職員
2	マネジメント研修会	グループリーダー、サブリーダー
3	フォローアップ研修	2～3年目の正規職員
4	キャリア開発セミナー	嘱託・臨時職員
5	業務検討会	正規職員全員
6	コンプライアンス研修	全職員
7	会計研修	幹部職員

(5) 権利擁護支援の充実

①その人らしく地域で生活するための権利擁護のしくみづくりに努めます

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
地域福祉権利擁護事業や成年後見制度等の利用支援を進めるとともに、親族後見人、専門職後見人以外の受け皿を確保するため、法人後見事業を推進し、その人らしく地域で生活するためのしくみが安心して利用できるよう取り組む。	地域福祉権利擁護事業と法人後見事業の効果的かつ一体的支援を行うために、生活支援員を増員し、組織体制の強化を図った。 また、継続した権利擁護支援ができるよう、ご利用者の心身の状態や生活状況に応じて、地域福祉権利擁護事業から成年後見制度への移行支援を行った。	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度の各事業の効果的な利用をすすめるため、権利擁護に関する制度理解の促進やより幅広い周知のしくみを構築する。

②権利擁護関係機関などとの連携強化を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
地域の関係団体や事業者同士、市の関係機関、社会福祉協議会等、地域福祉に関わる関係組織が連携し、介護保険や障害福祉事業等の制度間の連携を図り、総合的に地域福祉を推進していく。	大津市権利擁護サポートセンターとの連携会議を開催し、定期的な事業調整や困難ケース検討等を行った。また、「なんでも相談会」や「事例検討会」「受任調整会議」への参加協力を通して、関係機関との連携を図った。	家計支援、滞納整理、分納交渉など相談者がかかえる金銭問題や福祉ニーズに対応できる専門性の向上・維持に努める。また、関係機関や行政機関だけでなく、社協部門間や地域の社会資源とも幅広くつながることで、柔軟な権利擁護支援を実践する。

主な事業

・法人後見事業の実施

大津市における被後見人等の受任ニーズが高まっていることを受け、地域福祉権利擁護事業で培ってきた知識や専門性を活かし、平成 28 年度から公益的な取り組みとして法人後見事業を実施している。平成 30 年度は、模擬受任調整会議等を経て 3 件の後見、保佐を受任した。

また、権利擁護支援センターを事務局とした、事例検討会や受任調整会議、なんでも相談会等に積極的に参加し、市内の弁護士・司法書士・社会福祉士同士の連携の強化を図った。

1) 類型別受任状況

(人)

	後見	保佐	補助	合計
平成 28 年度	0	1	0	1
平成 29 年度	8	6	2	16
平成 30 年度	1	2	0	3
合計	9	9	2	20

2) 障害類型及び居所別受任状況

	認知症高齢者	知的障害者等	精神障害者等	合計
在宅	3	3	3	9
福祉施設	10	0	0	10
病院	0	0	1	1
合計	13	3	4	20

・地域福祉権利擁護事業の実施

判断能力が十分でない方や財産管理に不安をもっておられる方と契約を行い、①福祉サービスの利用援助 ②日常の金銭管理サービス ③書類預かりサービスを中心に、日常生活における代理、代行、同行等の様々な支援を行った。こうした日常的なかかわりの中で、生活状況の変化を察知し、医療・福祉・行政などさまざまな関係機関と連携を図っている。

また認知症や判断能力の低下が進み、法律行為に不安がある方は大津市権利擁護サポートセンター・弁護士・司法書士等関係機関と連携し、成年後見制度への移行に向けて支援した。

1) 相談援助件数 (延べ件数)

(件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合計
平成 26 年度	4,701	3,894	3,389	190	12,174
平成 27 年度	5,948	4,449	3,013	216	13,626
平成 28 年度	5,331	5,121	2,837	281	13,570
平成 29 年度	3,965	4,523	2,815	304	11,607
平成 30 年度	5,481	5,006	3,529	575	14,591

2) 契約締結件数

(件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合計
平成 26 年度	19	6	10	3	38
平成 27 年度	33	11	10	1	55
平成 28 年度	13	11	11	1	36
平成 29 年度	21	14	6	8	49
平成 30 年度	8	8	7	4	27

3) 契約終了件数 (件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合計
平成 26 年度	25	2	7	4	38
平成 27 年度	22	6	9	0	37
平成 28 年度	39	6	6	3	54
平成 29 年度	25	7	5	1	38
平成 30 年度	19	4	5	3	31

4) 現在の実利用人数 (件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合計
平成 26 年度	65	46	31	3	145
平成 27 年度	77	51	33	4	165
平成 28 年度	51	56	38	2	147
平成 29 年度	45	66	36	11	158
平成 30 年度	35	70	36	12	153

5) 新規相談件数及び相談経路

居宅介護支援事業所	あんしん長寿相談所	生活福祉課	病院（医師）	知的障害者支援機関	精神障害者支援機関	本人・親族・知人	大津市権利擁護サポートセンター	長寿政策課	おおつはたらき暮らし応援センター	民生委員児童委員	夜まわりの会	部門間（自立支援グループ）	児童相談所	介護福祉施設	児童入所施設	福祉作業所	障害福祉課	子供家庭相談室	すこやか相談所	県定着支援センター	他市町社協	合計	
23	13	12	11	7	6	4	3	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	99

大津市は各種相談支援機関が充実していることもあり、様々な支援者から相談がある。

6) 課題に対する取り組み

平成 30 年度は、知的や発達等にハンディを持つ利用者への、よりよい援助を提供するため、権利擁護支援研修会を開催し、障害特性の理解や具体的なはたらきかけや対人援助技術について学んだほか、市内計画相談員との合同研修（*）も開催した。

日 時(14時～16時)	講 師	内 容
平成 30 年 4 月 26 日(木)	彩社会福祉士事務所 代表 坂本 彩氏	講 義
平成 30 年 7 月 26 日(木)		事例検討（ピカジップ法）*合同
平成 30 年 10 月 30 日(火)		事例検討(ピカジップ法)
平成 31 年 2 月 20 日(水)	当事者団体「WISH」 田中 英世氏	当事者に学ぶ 「ピアサポーター活動の実践」ほか

・権利擁護支援にかかわる関係機関との連携

本会ではこれまでより、NPO法人「あさがお」や大津市権利擁護サポートセンターのほか、大津市虐待防止センターと、困難事例や虐待事例において、相互連携を進めてきた。

また、法人後見事業における情報共有や、成年後見制度の申し立て支援のほか、成年後見制度利用の促進を目的に、NPO法人「あさがお」と連携会議を開催したほか、民生委員児童委員協議会連合会の広報記事として、権利擁護支援の紹介を行った。

平成30年10月15日

大津市社会福祉協議会が目指す権利擁護支援 ～その人の生き方を応援します～

認知症高齢者、知的障害・精神障害のある方などで、判断能力が不十分な方に対する援助として「地域福祉権利擁護事業（日常生活自立支援事業）」と「成年後見制度」があります。この2つの制度はよく似ていますが、対象者の要件や援助できる範囲（権限）などが異なっています。

大津市社会福祉協議会では、平成12年度から「地域福祉権利擁護事業」を、平成28年度から「法人後見事業」を実施し、安心して暮らし続けるための援助を行っています。

制度の概要 及び 利用状況

制度	成年後見制度 (補助・保佐・後見)	地域福祉権利擁護事業 (日常生活自立支援事業)
所管庁	法務省(民法)	厚生労働省(社会福祉法)
概要	財産管理や身上監護に関する法律行為全般	日常生活援助の範囲内での支援
具体例	●施設への入退所契約、治療、入院契約 ●不動産の売却や遺産分割 ●消費者被害の取扱い	●福祉サービス利用の申し込み ●ご本人の契約手続きの援助 ●日常生活上の必要資金の出し入れ
相談窓口	弁護士・司法書士・社会福祉士等 大津市権利擁護サポートセンター	社会福祉協議会
申込み	家庭裁判所へ申立	社会福祉協議会へ申し込み
利用手続	家庭裁判所による選任	本人との社会福祉協議会との契約 ※本人の同意が必要
費用負担	家庭裁判所が決定	相談は無料、援助は有料(基準あり)
代理権	あり (補助・保佐の場合は申立が必要)	あり (在宅福祉サービスの利用手続き、 預貯金の払い戻し、支払い等の代行)
監督機関	家庭裁判所、後見監督人、任意後見監督人	都道府県社会協議会、運営適性化委員会
利用状況 (大津市社協)	●受任状況(平成30年6月末現在) 後見 8名 保佐 9名 補助 2名 計 19名 高齢 2 2 2 難聴 6 0 1 入院 0 0 1	●契約者数(平成30年6月末現在) 認知症高齢者 43名 知的障害者 69名 精神障害者 36名 その他(障害ほか) 14名 計 162名 ●相談者数(うち契約した人数) 平成27年度 127名(55名) 平成28年度 117名(36名) 平成29年度 177名(49名)

半断能力の低下などで「選択」や「自己決定」ができない際の本人の意思や利益を守り、代弁することが権利擁護における大切な意思決定支援です。

約7割の方が契約に至らない背景には、①ご本人の拒否(まだ面倒らしい) ②意志疎略が困難(成年後見制度の検討へ) ③「行方不明」などがあげられます。

例えは、
「せつんかていまで
お金が入るとすぐ
に使ってしまう
通帳やキャッシュカード
を失くしてしまう
支払いや手続きが
わからない
親族・第三者から
お金をとられているかも？」

各種相談機関との連携

■平成29年度 契約者の相談経路

相談経路	弁護士	行政機関	医療機関	福祉協議会	知的障害者支援センター	認知症高齢者	セブテック	他市町社協	その他
相談件数	49	9	8	6	5	5	3	2	1

制度利用につながる方のほとんどは、福祉関係機関からの相談です。民生委員のみさんをはじめ、地域の各相談支援機関による実態の把握が必要です。

ご利用者(被後見人含む)の生活状況や金融管理能力、家族との関係など、本人を取り巻く環境を把握することが、支援への第一歩です。そのためにも、日頃からの関係機関との連携が努めています。

相談連携連絡会は平成5年より26年間継続中！

■司法、保健、福祉などの相談機関に呼びかけています。

大津市権利擁護サポートセンターとの連携

大津市権利擁護サポートセンターは、大津市の委託を受けて「認定特定非営利活動法人あきがお」が、平成28年4月から運営しています。

権利擁護に関する普及・啓発、人材育成、市民後見推進事業、高齢者虐待対応・スーパーバイスなど、権利擁護・成年後見に関する相談窓口として開設されました。

■あきがおとの連携会議を開催しています(1回/月) ■

こんにちはお手を貸しています

■明日都須大津4F■

日常の具体的な支援は、生活費や各種支払いの代りのほか、ご利用者の状況に応じて、行政窓口への同行、暮らしの中の回りごと相談など様々です。また、債務整理や労働問題など専門相談につき場合も少なくありません。できる限り本人の意思を尊重しながら、本人の権利や生活を守ります。

権利擁護グループのメンバー

- 代理や同行による、様々な申請、提出などのサポートを行います
- 銀行窓口で、生活費等を引き出し、本人へお届けします
- 医療や介護、福祉サービスなどが適切に利用できるよう支援します
- ご本人にかかわる支援者や支援機関とのケース会議に参加します
- 施設や病院、薬局、福祉事業所等から届く請求の支払いを行います
- 家計管理の経験が乏しい方には、やりくりや買い物の方なども援助します
- 通帳や印鑑のほか、年金証書や権利証券、契約証券などを預かります

・ 権利擁護研究会の開催

犯罪被害者についてや、医療観察法、若者の就労等について、福祉・権利擁護の視点で共有した。

開催日	
6月25日(月)	2月28日(木)
11月5日(月)	

メンバー：当事者(家族)、相談支援事業所、就労支援事業所、弁護士、犯罪被害者支援事業所、市社協

(6) 大津市における地域包括ケア体制の構築

①誰もが参加できる地域包括ケアに向けた地域力の向上を目指します

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
市民や行政、専門職が協力して地域包括ケアに取り組んでいくため、日頃からのつながりを構築し、課題解決へのサポートが得られるよう、地域力の向上を目指す。	第2層生活支援コーディネーターを各ブロックに配置し、あんしん長寿相談所と連携しながらブロックごとに協議体を立ち上げ、ニーズ把握や事業を実施した。	協議体のメンバーや地域の新たな担い手、支援者の発掘と連携に努める。

②地域での助けあい、支えあい活動の把握と連携の充実に努めます

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
市民と専門職同士、また、市民と専門職等のネットワークを強化し、困難を抱えている人に必要な支援を提供できるよう、地域での助けあい、支えあい活動を把握するとともに、生活支援におけるコーディネーター機能を充実する。	ふれあいサロンや助け合い活動、配食事業、買い物支援の社会資源を、厚生労働省のホームページ「介護サービス情報公表システム」に掲載し、情報発信を行った。	社会資源を多くの人に知ってもらい、活用してもらえるように、冊子にする。

主な事業

・生活支援サービス体制整備業務

1) 事業の目的

本事業は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう「生活支援コーディネーター」の配置と「協議体」の設置により、地域での助け合いやささえ合い活動を育み、地域力の向上を目指すことを目的としている。

2) 実施主体

大津市（大津市より受託）

3) 事業の内容

生活支援コーディネーターの活動と、協議体におけるつながりづくりから、地域に高齢者の生活を支える仕組みづくりを推進する。

*「生活支援コーディネーター」は、高齢者の日常生活における困りごとを把握・共有しながら、地域の実情に合わせた仕組みづくりを行っている。そのために、地域の社会資源である人と人、人と活動、活動と活動を「発掘・つなぎ・発信」し、助け合いや支え合いを推進してきた。

*「協議体」は、地域のみなさんと高齢者の生活支援に携わる介護事業所、福祉施設、法人、企業、ボランティア団体など多様な主体が、それぞれの知恵や工夫を活かして暮らしやすい地域づくりを進める話し合いの場である。

平成 30 年度	生活支援コーディネーター	協議体
大津市全域(第1層)	1名	1ヶ所
7保健福祉ブロック(第2層)	7名	7ヶ所

①生活支援体制整備関係者会議

ア) 市域会議（1回/月）

大津市の生活支援体制整備事業に係る担当者が事業の進捗状況について共有した。

参加者	長寿政策課（地域包括ケア推進室）	3名
	あんしん長寿相談所（社会福祉士）	7名
	本会（地域支援グループ）	8名

イ) エリア会議（1回/月）

本会の第2層生活支援コーディネーターと各あんしん長寿相談所の事業担当者を中心に地域課題を共有し、協議体の設置・運営について検討した。

ウ) コミュニティソーシャルワーカー会議 (1回/月)

本会の第1層生活支援コーディネーターと第2層生活支援コーディネーターが地域課題や事業の進捗状況を共有した。

エ) 生活支援体制整備事業アドバイザーによる研修と指導、助言 3回/年

委託元である大津市健康保険部長寿政策課地域包括ケア推進室と協議の上、大津市の生活支援体制整備事業の推進を図るために、佛教大学福祉教育センター 金田喜弘先生をアドバイザーに勉強会を開催した。また、第2回では京都府南丹市と本事業について交流会を開催した。

	開催日	開催場所	本会の参加者
第1回	平成30年6月25日	明日都浜大津ふれあいプラザ4階(視聴覚室)	8人
	テーマ	大津市における地域福祉の推進を展開するために	
第2回	平成30年10月29日	明日都浜大津ふれあいプラザ5階(中会議室)	8人
	テーマ	南丹市×大津市 協議体交流会 ～であい・まなびあい・たかめあい～	
第3回	平成31年2月15日	明日都浜大津ふれあいプラザ4階(ホール)	8人
	テーマ	助け合いマップ作成に向けて 生活支援体制構築に向けた作戦会議	

②協議体の運営

大津市が開催する第1層(大津市域)協議体、あんしん長寿相談所が開催する第2層(7保健福祉圏域)協議体に企画段階から参画し協議体の運営に協力した。

ア) 第1層(大津市域)

	開催日	開催場所	本会の参加者
第1回	平成30年9月26日	明日都浜大津ふれあいプラザ5階(大会議室)	9人
	【内容】 ・生活支援体制整備事業の概要について ・ディスカッション a) 新たな担い手の発掘と養成について b) 大津市高齢者等地域見守りネットワーク事業について ・講評		
第2回	平成31年3月26日	大津市役所本館(第4委員会室)	9人
	【内容】 ・第1回の振り返り ・第2層の生活支援体制整備事業について a) 志賀ブロック「健康いきいき祭」 b) 北部ブロック「ふれあいサロン交流会」 c) 中部ブロック「クラウンカフェ」 ・第1層の生活支援体制整備事業について a) 地域福祉担い手養成講座「おやじ塾」の開催について b) 「ふれあいサロン交流会」の開催について ・まとめ		
メンバー	所 属		氏 名
	大津市老人クラブ連合会		副会長 松田 輝男
	公益社団法人 大津市シルバー人材センター		業務福祉課長 中島 慶次
	社会福祉法人大津市社会福祉協議会		事務局次長 山口 浩次
	生活協同組合コープしが		西地区運営事務局 事務局長 石本 与志夫
	レーク大津農業協同組合		企画課長 奥村 健史
大津市コンビニエンスストア協会		事務局長 久保 敏彦	

イ) 第2層 (7保健福祉圏域)

＜志賀ブロック＞		
第1回	平成30年6月12日(火)	志賀健康いきいき祭について
第2回	平成30年10月9日(火)	志賀健康いきいき祭実行委員会
第3回	平成30年12月4日(火)	志賀健康いきいき祭の結果について
第4回	平成31年3月5日(火)	次年度の会議日程と事業について
<p>今年度は、ブロック学区社協連絡会を協議体とし、その主事業を志賀健康いきいき祭として検討と事業実施をした。実行委員会では、ブロック内の地域団体、介護関係者、医療関係者、福祉施設等が一堂に会し、いきいき祭の実施に向けて話し合いを行った。 次年度は、ブロックだけでなく学区ごとに連携した新たな取組みが進むように検討する。</p>		
		

＜北部ブロック＞		
第1回	平成30年10月26日(金)	北部ブロックふれあいサロン交流会
第2回	平成31年1月17日(金)	真野北地区民生委員児童員協議会 1月定例会 「ずっとあんしん鍵預かり事業」説明
第3回	平成31年3月14日(木)	真野北地区民生委員児童員協議会 3月定例会 「ずっとあんしん鍵預かり事業」進捗状況の報告
<p>伊香立学区の情報収取については、10/21(水)北部クリーンセンター施設立替委員会「あんしん・あんぜん・見守りネットワーク」会議に出席し伊香立学区の住民の声を聞くことができた。「福祉マップ作り」に、あんしん長寿相談所と市社協の専門職が協力しながら進めたい。 「北部ブロックふれあいサロン交流会」に、25サロン51名が参加され地域における見守り活動の担い手が集まり、情報交換や課題解決を目的に話し合いを進めた。学区社協役員・地区民児協会長に出席いただき、地域の高齢者の居場所づくりについて現状把握をしていただいた。 また、真野北地区民児協、特養「真野しょうぶ苑」と連携して行う「ずっとあんしん鍵預かり事業」について地域で協議している。あんしん長寿相談所とも連携し真野北学区で高齢者の見守り体制づくりを進めていきたい。</p>		
		

＜比叡ブロック＞		
第1回	平成30年4月20日（金）	「平成30年度 第1回 おむすびネット比叡」
第2回	平成30年10月16日（火）	「平成30年度 第2回 おむすびネット比叡」
第3回	平成31年2月19日（火）	「平成30年度 第3回 おむすびネット比叡」
<p>今年度は大津市社会福祉協議会比叡ブロック施設連絡会と合同で①「坂本の夜の子どもの居場所づくり」②「地域の福祉専門職の情報共有のための冊子づくり」を進めた。地域住民、施設連絡会加入施設、行政などと連携し、社会福祉法人 真盛園で「フリースペースしんせい」を開始した。会議体の参加メンバーにアンケートを行ったところ、施設と施設、人と人、地域と施設のつながりづくりに期待する声が多く寄せられた。次年度は高齢分野の地域課題もテーマに、あんしん長寿相談所との連携を深め事業を進めていきたい。</p>		
		

＜中部ブロック＞		
第1回	平成30年7月4日（水）	『第1回 中部ブロック協議体連携会議』
第2回	平成30年9月3日（月）	『第2回 中部ブロック協議体連携会議』
第3回	平成30年12月10日（月）	『第3回 中部ブロック協議体連携会議』
第4回	平成31年2月20日（水）	『第4回 中部ブロック協議体連携会議』
<p>長等・逢坂・中央の3学区が対象エリア。話し合いの中のキーワードである「小さな単位で支え合う仕組み」を作るため、11月16日（金）に、誰でも気軽に参加できる居場所としてカフェを長等商店街の中にモデル的に開設した。これをきっかけに商店や薬局、福祉施設と協力関係を結ぶことができた。</p>		
		

＜中南部ブロック＞		
第1回	平成30年6月12日（火）	『第4回 高齢者に関するお悩み共有会』
第2回	平成30年11月19日（月）	『第5回 高齢者に関するお悩み共有会』
第3回	平成31年2月18日（月）	『第6回 高齢者に関するお悩み共有会』

晴嵐・富士見の山手の地域に従事者にお集まりいただき、地域のつながり・支えあいを広げることで高齢者の生活を支えることを目的に、地域と専門職（包括・社協）が集まり、定期的な情報共有や連携方法について話し合いながら、できることをみんなで考える場となった。



第4回 高齢者に関するお悩み共有会

開催日 平成30年6月12日（火）
 時間 13:30～15:30
 場所 両見ふるまひセンター

参加者 晴嵐・富士見の山手地区 高齢者、関係者、関係機関職員、関係者、関係機関職員、関係者、関係機関職員

内容 高齢者に関するお悩み共有会、地域と専門職（包括・社協）が集まり、定期的な情報共有や連携方法について話し合いながら、できることをみんなで考える場となった。



参加者写真

参加者 晴嵐・富士見の山手地区 高齢者、関係者、関係機関職員、関係者、関係機関職員、関係者、関係機関職員

内容 高齢者に関するお悩み共有会、地域と専門職（包括・社協）が集まり、定期的な情報共有や連携方法について話し合いながら、できることをみんなで考える場となった。

＜南部ブロック＞		
第1回	平成30年10月5日（金）	第1回 田上学区懇談会
第2回	平成30年11月7日（水）	第2回 田上学区懇談会
第3回	平成31年1月23日（水）	第3回 田上学区懇談会

平成29年度 田上学区結芽ネットを継続する形で「田上学区懇談会」を開催した。同じ南部ブロックで地域の懇談会を重ね、助けあい活動を始めた石山学区との懇談の機会をつくった。田上学区では何から始めれば良いのか検討し、ひとり暮らし高齢者の生活について、担当の民生委員児童委員が訪問し聞き取りを行った。

平成29年度に南部ブロック社会福祉協議会が開催した「南部ブロックサロン交流会」が好評であったので、次年度は高齢者の暮らしを支える主体の交流会を委員会方式で開催したいと考えている。



田上学区懇談会参加者写真1



田上学区懇談会参加者写真2

＜東部ブロック＞		
第1回	平成30年7月24日（火）	『第1回 住みまちプロジェクト』
第2回	平成30年10月25日（木）	『第2回 住みまちプロジェクト』
第3回	平成31年3月15日（月）	『第3回 住みまちプロジェクト』
東部ブロックにおいて、困りごと・ボランティアについてアンケートを実施。874件のご協力をいただき、アンケート結果からキーワードとして、居場所・ボランティア・リーフレットが挙げられた。参加者と情報共有し、今後の方向性を定めることが出来た。		
		

③ 生活支援サービス情報発信業務

ア) 「介護サービス情報公表システム」

地域で実施されている高齢者の生活支援サービスに係る情報収集を行い、了解が得られた活動については、厚生労働省が開設するインターネットサービス「介護サービス情報公表システム」を活用し情報発信を行った。情報発信した団体・グループでは、お互いの交流が生まれ、活動の充実にもつながった。

新規公表数(平成30年度掲載分)	71 件
更新(平成29年度掲載分)	164 件

イ) 「おやじの連絡帳」の発行

退職後の男性が社会で孤立しないために、役割や生きがいを持てるよう地域で活動する一歩を踏み出すことをねらいに「おやじの連絡帳」を発行した。また、今年度は退職後に地域で活動されている男性の姿を記事にし、男性の活躍の場が広がることを期待し作成した。



④ 地域福祉担い手養成講座～大津いきいきおやじのすゝめ「おやじ塾」～の開催

地域福祉活動は多くの地域住民がボランティアで支えてきた。しかし、活動の担い手であるボランティアの高齢化、地域への関心の希薄化により担い手不足が課題となっている。

本講座は、地域に関心はあるが行動につながらない退職シニア男性を対象として、地域への関心を高め、実際の活動につながることを目的に開催した。

全4回	開催日	開催時間
第1回	平成30年11月6日（火）	10:00～15:00
テーマ	「会社人から地域人へ」	

第2回	平成30年11月14日(水)	14:00~16:00
テーマ	「知ってください！わたしたち大津市社協の活動を！」	
第3回	平成30年11月22日(木)	14:00~16:00
テーマ	「今、大津が熱い！おやじの活動に学ぶ」	
第4回	平成30年11月28日(水)	10:00~15:00
テーマ	「災害支援はおやじの出番！」、全4回の振り返り、修了式	



今後、この「塾」を活動にいかしていき、地域のみなさまに「住みよい安全」なまちづくりを進めたいです。



楽しく気楽に参加できました。この講座の上級版も考えてみてください。

・ 車いすの貸出し事業

日常生活の移動に支障がある人に対し、家族の介護の負担軽減を図ることを目的として、車いすを貸出した。(無料)

車いすの貸出し事業の利用状況

	貸出	返却	更新	寄付	合計
平成28年度	65	56	141	9	271
平成29年度	67	69	174	8	318
平成30年度	96	60	160	7	323

※上記のほか、学区社協では独自に車いすの貸出を実施している。

効果：緊急の利用や旅行、帰郷などに活用され、外出の機会ができたこと喜ばれた。

・ 地域包括支援センター職員派遣事業

大津市の地域包括支援センターに社会福祉士を5名派遣した。

配置場所：堅田1名、比叡2名、中2名、南1名、瀬田1名

・ 市福祉政策課への職員派遣

大津市の福祉政策課へ社会福祉士を1名派遣した。

生活困窮者自立支援事業等を担当。

・ ふれあい給食事業の推進

ひとり暮らし高齢者の健康の増進をはかり、高齢者と地域の方々との交流を深めることを目的に、ふれあい給食サービス事業を市内25学区で実施した。

お弁当と一緒に、小学生が書いた手紙や季節のお菓子等を添えるなど、各学区独自の特徴を出しながら、取り組んだ。

1) ふれあい給食サービス事業実施一覧

①実施学区 25 学区

(葛川、伊香立、真野北、堅田、仰木、仰木の里、日吉台、坂本、下阪本、唐崎、滋賀、藤尾、長等、逢坂、中央、平野、膳所、富士見、晴嵐、南郷、大石、田上、瀬田、瀬田南、瀬田東)

②利用者(実人数) 1,505名(平成29年度1,540名)

③年間給食数 16,194食(平成29年度16,164食)



手作りお弁当調理中



給食を配食

効果：ひとりの高齢者にお弁当を作り届けるだけでなく、地域の様々な団体や世代が出会い、力を合わせるひとつの機会となった。

2) ふれあい給食サービス事業研修会

日時 平成30年7月7日(金) 13:30~15:30

場所 ふれあいプラザ4階ホール

参加者 43名

内容 ・食品衛生セミナー

講師 大津市保健所衛生課 食の安全推進係 宮川 周平 氏

・フリートーク(情報交換会)

3) 大津市企業局広報紙Pipe Lineに掲載



企業局広報紙にてふれあい給食事業を紹介していただくことになり、今年度は富士見・膳所・平野学区を紹介していただいた。

・ふれあいサロン育成事業

ふれあいサロンの運営や活動に関する様々な相談に応じるとともに、ふれあいサロンのボランティア同士が出会い、交流する機会としてふれあいサロン交流会を開催した。

また、本会に登録されているふれあいサロンに対して、ボランティア行事用保険料の一部を助成し、活動をサポートした。

1) ふれあいサロン登録数（平成31年3月31日現在）

- ①登録数：205団体
- ②利用者数：約3,300名
- ③ボランティア数：約1,500名
- ④年間開催総数：3,000回

市内には200を超えるふれあいサロンがあり、地域性を活かしながら、様々な取り組みを行った。

2) ふれあいサロンボランティア行事用保険助成

- ①助成団体数：55団体
- ②助成金額：275,535円

3) ふれあいサロン交流会

日時 平成31年2月18日

場所 ふれあいプラザ4階ホール

参加者 92名

内容 「サロン活動の悩みをスッキリ！悩みをやりがいに」
コープしがより「キッチンカー」の紹介
交流会



目標 2) 一人ひとりが生きる力を高めあい支え合える地域コミュニティづくり

(1) 福祉学習の推進

①新たな福祉学習の開発に努めます

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
個別のニーズに対応したプログラムを提案する。また、子どもの頃から福祉体験ができるよう、福祉教育担当者の情報交換会や社会福祉施設での受け入れについて調整を図る。	福祉施設による小中学校への福祉学習指導や施設での子どもたちの受け入れが実現。福祉施設の利用者にも大変喜ばれた。	ブロックで実施した福祉施設による福祉学習の質と協力施設数を高め、仕組みにして大津市全体へ拡大していく。

②地域の中で福祉を学べる場を増やします

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
身近な地域で福祉学習ができる機会として、福祉のまちづくり講座を学区社協で開催し、地域の力を活用した福祉学習の場づくりを推進する。	全 36 学区で福祉のまちづくり講座を開催し、地域に合わせたメニューづくりと講師選び、参加者への呼びかけを積極的に実施した。	新たな参加者層を対象にしたメニューづくりを進める。

主な事業

・福祉のまちづくり講座助成事業

学区社協では、安心して暮らし続けることのできる福祉のまちづくりを目指して、各種の講座やつどいが開催された。

実施学区：36 学区（平成 29 年度 36 学区）

実施講座：163 講座（平成 29 年度 183 講座）

参加人数 11,763 名（平成 29 年度 11,946 名）

36 全学区で講座が開催されました。講座内容は多種多様で、多くの住民が参加された。

平成30年度 福祉のまちづくり講座 実績報告										
学区	(日程・場所) 内容	参加人数	(日程・場所) 内容	参加人数	(日程・場所) 内容	参加人数	(日程・場所) 内容	参加人数		
小松	6/22 人権学習	36	6/12～11/7 環境学習	40	8/1 親子ふれあいバス	20	8/4 夏休み子ども祭	99	2/7 ヨシ刈り体験	40
	2/16 人権学習	80								
木戸	6/30 特殊詐欺被害防止講座	80	10/25 料理教室	38	2/16 人権学習	86				
和邇	5/19 福祉委員研修会	32	6/16 勉強会「「災害V C立ち上げについて」	29	9/22 勉強会「地域福祉と公民館自主運営について」	28	2/16 研修会「困りごとを抱えた子ども・若者への支援」	34		
小野	5/26 体力測定	85	5/26 福祉委員研修会と認知症サポーター養成講座	26	5/26 ふれあいサロンバス	51	2/2 法律相談	61	2/2 介護相談	61
葛川	6/29 健康教室	12	11/12 健康教室	12	1/15 子ども料理教室	17				
伊香立	7/11 高齢者セミナー健康体操	20	10/12 高齢者セミナーよし笛ギター演奏&お話し	20	10/17 高齢者セミナー折り紙教室	12	11/13 高齢者セミナーマジックと健康体操	18	12/5 高齢者セミナー寄せ植え	32
	2/19 親子セミナー	14								
真野	5/19 福祉委員研修会	45	7/19 夏のお元気サロン	130	11/15 秋のお元気サロン	150	12/8 そば打ち体験	20	2/9 親子でお菓子づくり	44
真野北	6/9 第1回福祉委員会	20	6/9 福祉交流会	30	7/10 第2回福祉委員会	20	9/27 地域福祉講座	50	3/16 ふれあい餅つき大会	120
堅田	4/18 ふれあいサロン	38	11/21 ふれあいサロン	44	12/19 ふれあいサロン	97	1/23 ふれあいサロン	56		
仰木	6/20 福祉委員研修会	12	11/18 仰木大収穫祭	200	11/24 防災訓練	64	12/4 生活習慣予防・料理教室	24	2/19 視察研修 田上つつき食堂見学	20
仰木の里	5/17 いきいき交流会	122	5/25 健康ウォーキング	46	6/3 夏のコンサート	160	12/13 クリスマス会	51	2/3 人権と福祉のつどい	63
雄琴	7/5 地域ケア会議	19	10/9 出前地域ケア会議	23	10/10 出前地域ケア会議	14	10/20 出前地域ケア会議	31	10/22 出前地域ケア会議	16
	10/236 出前地域ケア会議	13	10/240 出前地域ケア会議	26	2/21 地域ケア会議	31				
日吉台	6/13 すこやかサロンミニ講座	35	10/12 すこやかサロンミニ講座	31	12/12 すこやかサロン	106	3/13 すこやかサロンミニ講座	42	3/27 すこやかサロン	67
坂本	8/25 健康ロコモ予防講座	25	12/2 在宅療養応援講座	32	2/27 地域の福祉を考える	20				
下阪本	11/7 健康とふれあいの広場	11	11/9 健康とふれあいの広場	15	11/13 健康とふれあいの広場	19	11/20 健康とふれあいの広場	21	11/27 健康とふれあいの広場	26
唐崎	9/2 福祉フェスティバル	300	10/8 地域交流のつどい	360	11/18 地域交流のつどい	137	11/18 地域交流のつどい	117	11/25 地域交流のつどい	125
滋賀	5/6 福祉委員研修会	45	5/27 福祉委員民生委員合同研修会	55	6/17ふれあいサロン交流会	30	11/28 男の料理教室	21	12/16 地域医療講座	40
山中比叡平	6/9 田植え祭	47	7/28 陽だまり学習会	13	11/17 稲刈り祭	62	2/17 餅つき大会	150	3/26 バス研修	20
藤尾	4月～10月 手作り講習会	80	6/22 福祉委員・民生委員合同研修会	41	8/5 夏祭り	1300	12/15 ふれあい餅つき大会	378		
長等	7/23 合同研修	59	11/10 福祉研修	32	2/9 生活安全教室	30				
逢坂	5/28 福祉委員民生委員合同研修会	52	7/3 七夕のつどい	66	10/21 子どもまつり	1100	11/29 福祉委員民生委員合同研修会	45	12/18 クリスマス会	84
中央	5/22 福祉委員研修会	36	6/30 講座 見えない貧困に光をあてる	45	7/3 バス研修会「甲南 せせらぎ苑」	25	2/23 講座 高齢者に必要な防犯と防災の知識	44		
平野	7/1 福祉委員研修会	53	8/26 福祉委員民生委員合同研修会	54	11/25 音楽療法講座	26	3/3 福祉委員研修会	45		
膳所	6/30 第1回 地域福祉講座	34	9/29 第2回 地域福祉講座	76	10/20 第3回 地域福祉講座	80	11/18 学区民健康教室	200	2/9 第4回 地域福祉講座	48
富士見	6/30 福祉講座「ロコモ予防」	63	10/21 講演会	27	10/24 高齢者防犯教室	52	11/9 視察研修	19	1/22 福祉講座「エンディングノート」	44
晴嵐	6/2 福祉講座	51	10/23 ふれあい給食「秋のつどい」	35	11/29 視察研修	39				
石山	10/23 悔いのない終活について考えよう	36	10/30 悔いのない終活について考えよう	21	11/6 悔いのない終活について考えよう	21	11/13 悔いのない終活について考えよう	12	11/20 悔いのない終活について考えよう	23
南郷	6/30 福祉関係者合同研修会	43	9/17 敬老すこやか会のつどい	76	2/24 介護のつどい	112				
大石	7/7 いきいきふれあい広場	23	8/11 いきいきふれあい広場	30	10/20 いきいきふれあい広場	32	10/21 いきいきふれあい広場	42	10/21 いきいきふれあい広場	30
田上	8/27 学区戦没者慰霊祭	64	子どもクッキング大会	112	10/21 焼き芋大会	81	2/16 福祉大学	36	3/9 学区福祉大会	94
上田上	10/25 高齢者健康講座	22	11/4 学区文化祭	50	11/13 健康いきいき体操交流会	70	1/12 世代間交流事業	120	2/16 障害者福祉講座	60
青山	5/26 福祉委員研修会	30	6/20 シニアのつどい	82	9/8 福祉講座 (HUG)	45	1/26 福祉講座 (HUG)	45	2/22 シニアのつどい	78
瀬田	5/12 民生委員と福祉委員の合同研修会	48	5/22 高齢者の親睦と健康増進を兼ねたグランドゴルフ大会	57	6/2 ディスコン大会	28	7/1 夏休み子ども防犯	115		
瀬田北	5/13 福祉委員研修及び学童地域安全対策活動	36	11/24福祉健康講座「発行の神秘2018」	89						
瀬田南	6/30 福祉委員民生委員合同研修会	63	7/18～10/31 手話講座	20	7/30 夏休みの工作教室	27	9/27 お菓子作り体験	19	2/6 うどん打ち体験教室	30
瀬田東	10/23 薬物乱用防止講座	280	11/24 福祉のつどい	85	12/11 昔遊び	159				
		2164		2168	40	4351	1915	1165		
							合計	11763名		

・社会福祉大会の開催

本会と大津市の共催で開催した。今年度は車いすのアーティスト小西達也氏によるライブ&トークショーを実施。

- 1) 日 時 平成 30 年 11 月 16 日 (金)
- 2) 会 場 大津市和邇文化センター
- 3) 日 程
 - ・表彰状及び感謝状の贈呈 (個人 41 名、14 団体)
 - ・講演 ライブ&トークショー
小西 達也 氏
- 4) 参加者 300 名

・実習生の受け入れ

本会では、社会福祉士のための実習、司法修習生の実習など、様々な実習生を受け入れている。実習生の受け入れを通して、大学等との連携が深まり、職員が日頃の活動や事業の意義を再認識する機会になった。

日 程	学 校	人数
5 月 16 日 ~ 11 月 14 日 (26 日間)	京都光華女子大学	1
8 月 1 日 ~ 8 月 31 日 (23 日間)	龍谷大学	1
8 月 2 日 ~ 9 月 7 日 (24 日間)	大谷大学	1
10 月 25 日 (2 日間)	司法修習生	7
11 月 1 日 ~ 11 月 30 日 (23 日間)	龍谷大学	2
延べ合計 98 日間		12 名

・福祉教育・体験事業

人権教育や他者理解を進めるため、福祉教育・体験事業をつうじて、学校や団体、企業、地域で行われる講座や体験などの企画の相談、講師の紹介及び調整、体験用具の貸出(下記 5 種類)など、様々な支援を行った。

また、施設連絡会会員施設のご協力をいただき、施設職員に講師を担っていただいた。

1) 福祉体験・企画相談 40 件

(小学校 19 件、中学校 12、高等学校 4 件、専門学校 1 件、企業・地域・団体 4 件)

施設連絡会との連携により、高齢者介護施設職員に高齢者体験の指導を担っていただく機会が増え、高齢者への配慮や介護専門職の魅力を次世代の学生に語ってもらっている。

2) 体験用機材保有数

- ・車いす …10 台
- ・アイマスク …118 枚
- ・点字器 …127 枚
- ・白杖 …2 本
- ・高齢者未来体験グッズ…15 セット
- ・車いす (10 台) の整備を、福祉用具事業所に依頼して行った。

施設連絡会と連携したことで、福祉施設の職員に指導協力いただいた施設が増えた



福祉施設で高齢者体験



施設職員による高齢者体験

(2) 生きる力を育む場づくり

①一人ひとりの受援力を高めるとともに、地域で助けあえる関係づくりを進めます

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
「自分のことは自分です」という考えが、悩み事を抱えたときには「人に頼ることは恥ずかしい」という要因になってしまい、孤立化にもつながることが考えられる。一人ひとりが自己責任ではなく、普段から「助けて」と言いあえる関係づくりを進める。	アディクションフォーラムを通じて、様々な依存症の方々の横のつながりと、ワンストップの相談窓口の開設を行った。 トワイライトステイを通じて、支援の必要な子どもたちの夕方から夜の居場所づくりにおいて、子どもたちの自己肯定感を高めた。	ファミリーサポートセンターへの依頼や助けての声（おねがい会員）は増加している。今後は支援側のまかせて会員の増員を図る。

②地域のニーズにあわせた新しいしくみをつくります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
支えあい、見守りは実際には各地域で行われている取り組み。それぞれの地域で手助けや気遣いの気運を高め、お互いに地域での生活を支えていけるよう、地域に応じた活動づくりを支援する。	学区社協、地区民児協、薬局、福祉施設、商店が連携し、中央学区の商店街を活用した居場所をモデル的に開設し、支援者や地域住民に居場所の必要性和活気ある街づくりの機運が高まった。	モデルの取り組みを他地域の仕組みになるように、新たな居場所や助け合い活動を推進する。

主な事業

・生活支援物資の受け入れと活用

離職や病気療養等で経済的に困窮しておられる方の相談が、年間を通じて多く寄せられている。生活福祉資金等の貸付や生活保護などの公的制度を受けるまでの間、緊急的な支援として食料品を提供している。この取組みは、広報「ひまわり」や学区社協や地区民児協を通じて生活支援物資の提供をお願いし、市内の地域住民や企業等からの寄付で成り立っている。

皆様から提供いただいた生活支援物資については、生活困窮者自立支援事業と一体的に行い、大津市生活福祉課、地域包括支援センター、NPO法人大津夜まわりの会、NPO法人リバティエ・ウィメンズ・ハウスおりーぶ等と連携し、支援の必要な方へ効果的に提供した。

平成 30 年度 提供件数 (件数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平成30年度合計
62	60	37	42	46	52	31	38	39	49	33	37	526

(平成 29 年度合計 552 件)

ご寄附いただいた生活支援物資の内容と量

米	2,400 k g	缶詰	1,059 点
インスタントラーメン	4,085 食	レトルト食品	1,189 食
パスタ・乾麺	445 点	のり・調味料	355 点
その他	菓子類、衣料品、日用品、衛生用品 等		2,093 点

効果：生活相談を受ける中で、支援物資により食の確保と相談者の不安が軽減できており、よりスムーズな相談援助ができています。

・子どもの学習支援事業

①トワイライトステイ

生活が困窮していることや親が病気や障がいを抱えていること等家庭に課題があるため、学校に行きにくく、社会から孤立する子どもたちに対し、夕方から夜の居場所を地域につくり、生活意欲や学習意欲、自己肯定感の向上を図ることを目的とする。

実施場所：4か所 年間延べ175回実施

参加者：小学生11名・中学生2名・高校生1名 延べ528名参加

ボランティア：延べ714名

ねらい：居場所づくり、学習支援、食の確保、
世代間の交流、ボランティア同士の交流
協力：NPO法人こどもソーシャルワークセンター
(2ヶ所)、NPO法人あめんど(2ヶ所)



夕食の準備

②寺子屋プロジェクト

長期休暇中等の宿題、学習及び生活学習の支援並びに地域でのつながりや居場所づくりを目的に、地域の子どもを地域で育む地域福祉活動。

実施学区：19学区社協

小松・木戸・小野・真野北・堅田・雄琴・日吉台・坂本・下阪本・
唐崎・藤尾・逢坂・平野・富士見・石山・上田上・青山・瀬田・瀬田東

実施時期：長期休暇中、休日等

参加者：延べ3,990名の子どもたち

ボランティア・スタッフ：延べ1,794名

内容：宿題支援、居場所づくり、
調理実習、スポーツ等

効果：子どもとスタッフとが顔見知りになり、普段でも子どもから声をかけてくれるようになった。寺子屋プロジェクトが、子どもと地域の橋渡し役になった。



点字体験



後片付け
トイレ掃除も子どもで

・アディクションフォーラム実行委員会の運営支援

薬物・ギャンブル・アルコール依存症など様々な依存症（アディクション）を抱えた当事者や家族、関係機関や住民が依存症の理解を深めることを目的としてアディクションフォーラム in 滋賀の開催を支援した。

第11回 アディクションフォーラム in 滋賀

仲間を見つけた、希望を見つけた～本人、家族、依存症あるある～

日時：平成30年8月4日（日）10時00分～16時30分



会場：明日都浜大津 ふれあいプラザホール

内容：①仲間の話（当事者、家族からのメッセージ）

②グループインフォメーション

③びわこダルク「淡海響組」による和太鼓の演奏

④講演「ギャンブル依存症からの脱出」～借金解決よりも自助グループへ～

⑤ミニミーティング

参加者：223名

実行委員会：12回

・大津市ファミリーサポートセンター

大津市ファミリーサポートセンターは、育児の援助をしてほしい人（おねがい会員）と援助できる人（まかせて会員）が会員となって育児の相互援助活動を行い、地域の子育て支援、福祉の向上を図ることを目的とし、安心して生活できる環境づくりを応援している。

1) 活動状況について(平成30年度4月～3月)

会員数

単位：人

おねがい会員からどっちも会員、どっちも会員からまかせて会員への変更も積極的に働きかけた。

	平成30年度 3月末会員数	年度内入退会		
		入会	退会	増減
おねがい会員	1,521	152	78	74
まかせて会員	411	34	14	20
どっちも会員	329	28	13	15
合計	2,261	214	105	109

		依頼者側		援助者側			
会員の状況	(区分)	おねがい会員		どっちも会員		まかせて会員	
	対象者数	1,521人		329人		411人	
	年齢分布	～30代	36%	～30代	27%	～40代	19%
		40代	54%	40代	56%	50代	28%
他		10%	他	17%	60代～	53%	
活動状況	平均件数/1人	33件/年			37件/年		
	平均時間/1人	56時間/年			63時間/年		
	平均時間/1件	1.7時間			1.7時間		

注) 活動状況については、実際に活動のあった会員を対象として平均値を出している。



平成30年6月22日
「フラワーアレンジメント」
「ファミサポ交流会」



平成30年10月25日
「赤十字幼児安全法」



平成30年11月16日
「子どものあそび～たのしくあそぼう～」

活動内容・件数

単位:件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保育所・幼稚園の登園前の預かり			5	3	4	18	1			4	14	10	59
保育所・幼稚園の送り	16	16	23	18	24	35	25	19	29	34	40	32	311
保育所・幼稚園の迎え	84	86	92	61	43	45	55	53	48	58	76	76	777
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	40	23	13	13	9	17	17	16	12	32	28	38	258
児童の登校前の預かり	21	28	31	18		25	30	31	21	26	29	20	280
児童の学校等の送り	20	47	47	31	2	39	48	45	33	36	43	37	428
児童の学校終了後の迎え	2	22	20	13		19	21	19	15	15	16	16	178
児童の学校終了後の預かり	6	17	21	19	2	13	22	19	16	16	18	12	181
児童クラブの迎え	38	30	34	37	21	27	38	31	35	33	24	17	365
児童クラブ終了後の預かり	47	43	39	34	24	35	39	47	36	28	34	27	433
子どもの習い事等の場合の援助	23	27	37	32	24	29	33	33	33	26	30	16	343
保育所・学校等休みの時の援助	8	1	3	7	15	7	3	3	4	3	1	9	64
保育所等施設入所前の援助													
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	20	26	18	15	9	18	8	25	18	16	22	42	237
保護者等の求職活動中の援助											2	1	3
他の子どもの用事の場合の援助	8	8	14	8	2	6	10	24	7	9	20	17	133
保護者等の外出の場合の援助	28	8	3	6	5	1	9	11	5	6	13	18	113
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	2	1	1		1	1	1	1	2			5	15
保護者在宅時の援助	43	31	32	33	15	27	42	39	29	39	35	33	398
その他							4	10	8	6	8	4	40
合計	406	414	433	348	200	362	406	426	351	387	453	430	4616

内訳	保育所・幼稚園にかかわる援助	小学校・児童クラブにかかわる援助	その他
	1,405件 (30.4%)	1,865件 (40.4%)	1,346 (29.1%)

※活動状況について

- ・平成30年度一年間の活動件数は4,616件で、前年度より516件減少している。ほぼ毎日あった依頼がなくなったことから、件数としては減っている。
- ・“母が在宅時の育児サポート”が増加傾向にある。兄弟を母と一緒にサポートしてほしい、子育てを助けてほしいなど、周りに頼る方がなく、育児不安・社会不安を抱えておられることが伺える。

ブロック別・学区別 会員数と活動状況											
ブロック	学区	会員数				依頼状況			援助状況		
		おねがい	まかせて	どっちも	計	依頼件数	依頼実人数	依頼時間 [時間:分]	援助件数	援助実人数	援助時間 [時間:分]
志賀	小松	2	2	1	5	0	0	0:00	0	0	0:00
	木戸	14	1	0	15	66	1	215:35	66	1	215:35
	和邇	18	4	5	27	0	0	0:00	14	1	40:20
	小野	12	3	2	17	106	2	72:00	111	3	91:00
	小計	46	10	8	64	172	3	287:35	191	5	346:55
北部	葛川	0	0	0	0	0	0	0:00	0	0	0:00
	伊香立	3	1	1	5	28	2	27:20	26	1	23:00
	真野北	5	5	3	13	0	0	0:00	1	1	2:30
	真野	28	5	2	35	0	0	0:00	40	2	157:15
	堅田	42	15	14	71	559	7	991:05	384	6	471:05
	仰木	0	2	0	2	0	0	0:00	0	0	0:00
	仰木の里	54	24	12	90	384	7	657:45	467	6	697:00
	小計	132	52	32	216	971	16	1676:10	918	16	1350:50
比叡	雄琴	18	6	7	31	3	1	25:20	2	1	17:50
	日吉台	7	10	1	18	185	1	358:05	185	1	358:05
	坂本	26	12	9	47	282	5	524:00	314	4	582:35
	下阪本	38	7	10	55	35	5	45:30	6	3	11:55
	唐崎	62	19	11	92	14	4	70:40	24	3	140:20
	小計	151	54	38	243	519	16	1023:35	531	12	1110:45
中部	滋賀	83	21	26	130	231	7	486:00	152	5	386:40
	山中比叡平	7	6	5	18	0	0	0:00	0	0	0:00
	長等	82	21	16	119	30	7	74:30	178	9	406:50
	藤尾	12	7	2	21	0	0	0:00	0	0	0:00
	逢坂	68	12	12	92	273	5	233:10	406	7	540:05
	中央	65	10	12	87	710	14	1385:55	437	5	632:55
小計	317	77	73	467	1244	33	2179:35	1,173	26	1966:30	
中南部	平野	169	47	45	261	520	24	895:56	854	26	1801:22
	膳所	71	23	17	111	287	9	388:56	129	5	135:30
	晴嵐	111	33	13	157	261	10	491:15	201	10	311:50
	富士見	51	13	5	69	9	3	24:20	6	2	17:40
	小計	402	116	80	598	1077	46	1800:27	1,190	43	2266:22
南部	石山	27	6	11	44	56	3	102:25	7	2	40:55
	南郷	17	17	6	40	16	2	36:20	18	2	42:20
	大石	9	4	0	13	1	1	1:30	1	1	1:30
	田上	17	7	5	29	0	0	0:00	0	0	0:00
	小計	70	34	22	126	73	6	140:15	26	5	84:45
東部	上田上	2	1	1	4	0	0	0:00	0	0	0:00
	青山	72	12	23	107	253	7	212:26	253	8	212:26
	瀬田	95	8	22	125	40	2	46:15	135	4	134:25
	瀬田南	71	15	9	95	142	4	141:30	83	2	65:50
	瀬田北	79	14	11	104	115	4	244:40	115	2	244:40
	瀬田東	84	18	10	112	10	3	32:35	1	1	1:35
	小計	403	68	76	547	560	20	677:26	587	17	658:56
合計	1,521	411	329	2,261	4,616	140	7785:03	4,616	124	7785:03	
				(人)	(件)	(人)	[時間:分]	(件)	(人)	[時間:分]	

ブロック、学区別の会員数・依頼、援助状況は、ファミリーサポートセンターの対象となる子ども（0～18歳）が多い地域、家やマンションが新しく建つ地域で多くなっている。また継続して依頼される会員の人数や利用回数により、件数の増減がみられる。

2) 講習会・交流会

回	日 時	内 容	参加者	概略又はアンケートより
1	6月7日(木)	「乳幼児の保育と子育て支援」 「大津市ファミリーサポートセンターについて」 講師：大津市ファミリーサポートセンター 大西 知子 山根 美香	11名 (託児5名)	地域に知人や頼れる人がいない場合にファミサポの存在はありがたい。乳幼児の発達、保育を学ぶことができサポートに役立てていきたい。
2	6月22日(金)	ファミサポ交流会 「簡単フラワーアレンジメント・井戸端会議」 講師：CFD協会本部講師 田中 三貴子氏	18名 (託児3名)	花のアレンジメントで心が癒されリフレッシュできた後の交流会で、子育てや援助活動の話が弾み十分に交流ができた。今後のサポート活動の参考にしたい。
3	7月12日(木)	「子どもの成長と心の発達」 講師：子ども発達相談センター 発達相談員 平野 美香 氏	27名 (託児6名)	それぞれの年齢の子どもの発達がよく理解できた。発達を知ったうえで子どもと関わることで、楽しく安心して過ごせる毎日をつくっていきたい。
4	9月11日(火)	「子どもの気になる姿・かかわり、障害についての理解」 講師：子ども発達相談センター 発達相談員 平野 美香 氏	23名 (託児5名)	発達障害についてよく理解できた。具体的な事例から、障害の有無ではなく普段の子育てでも必要な関わりであることがわかった。
5	10月11日(木)	ファミサポ交流会 「交通安全講習～チャイルドシートの取付・歩行時や車使用時の安全について」 講師：JAF滋賀支部 生田 真 氏	13名 (託児8名)	初めてJAFの講習会を実施。動画やドライブレコーダーの記録の紹介で視覚的にわかりやすい講習であった。ファミサポの活動に役立つ内容であった。
6	10月23日(火)	「赤十字幼児安全法①」 講師：日本赤十字社 岩永 止美子 氏 三宅 由美子 氏・渡邊 優子 氏 荻郷 美紀 氏	22名 (託児3名)	 <p>子どもの病気やけがの看病・応急手当、一次救命処置やAEDの実技、災害時の子どもへの支援など3日間で、幅広い内容を学ぶ機会となった。</p>
7	10月24日(水)	「赤十字幼児安全法②」 講師：日本赤十字社 岩永 止美子 氏 高橋 洋子 氏・蛭原 法子 氏 荻郷 美紀 氏	21名 (託児3名)	
8	10月25日(木)	「赤十字幼児安全法③」 講師：日本赤十字社 岩永 止美子 氏 飯田 順子 氏・石田 あい子 氏 荻郷 美紀 氏	22名 (託児4名)	
9	10月25日(木)	「赤十字幼児安全法 検定試験」	19名(託児3名)	繰り返し実技の練習をし、テキストを真剣に読んで、検定試験に挑まれた。全員、無事合格。
10	11月16日(金)	「子どものあそび～たのしくあそぼう～」 講師：ひえい平保育園 上田 苗津子氏 和邇保育園 山名 智絵氏	17名(子ども11名)	身近な材料で簡単に楽しめるものを多く紹介され、家でもやってみたいという声が多かった。ゆったりと子どもと向き合い遊ぶ時間となった。
11	12月7日(金)	「子どもの食生活と楽しい食事」 講師：幼児政策課 栄養士 中山 澄江 氏	11名 (託児7名)	食育は子どもにも大人にも大切なことであることを、興味深く学べた。食物アレルギーや食中毒についても幅広く学ぶ機会となった。
12	12月15日(土)	クリスマス交流会 おはなし会「ころりん」人形劇 「ミスターけんけん」バルーンショー ワークショップ	32名 (子ども37名)	チラシやポスターを見ての参加が多かった。子育て中の親子や祖父母の参加もあり、会場全体が盛り上がり大いに楽しめた。
13	2月14日(木)	「子育てを取り巻く状況～虐待相談からみえるもの～」 講師：子ども家庭相談室 専門員 山本 一代 氏	10名 (託児3名)	子どもを取り巻く現代社会の問題が理解できた。「大人の役割」を自分自身もしっかり考えていきたい。「声をかけ合う」ことが人を救い、自分が助けられる一歩になることが良くわかった。

3) ファミサポ登録説明会の開催

「ファミリーサポートセンター」を広く市民に周知すると共に、まかせて（援助）会員の増員を目的に、年間5回実施した。

- ・5月23日（水） 10時～11時
- ・7月23日（月） 14時～15時
- ・9月20日（木） 10時～11時
- ・11月22日（木） 14時～15時
- ・1月21日（月） 10時～11時

4) その他

①援助活動における自家用車の使用について

平成27年9月より、援助会員の自家用車を使用しての活動を規程に基づき開始する。

- ・平成27年10月～平成28年3月…103回
- ・平成28年4月～平成29年3月…401回
- ・平成29年4月～平成30年3月…774回
- ・平成30年4月～平成31年3月…496回

②大津市社会福祉大会にて感謝状贈呈

ファミリーサポートセンター援助会員として、長年、活動をいただいた会員に「大津市社会福祉協議会会長感謝状」を贈呈した。

平成30年度は1名に贈呈した。

③「ファミサポニュース」を発行

活動会員向けに年2回、夏号と冬号を発行した。

あそびの紹介や講習会で学んだことをわかりやすく掲載することで、ファミサポの活動に活かしてもらえるようにした。

・滋賀の縁（えにし）創造実践センターへ参画

1) 企画員・推進員として参画

2) 「要養護児童の自立支援」小委員会への参画

「児童養護施設等で暮らす子どもたちの社会への架け橋づくり事業」の推進について検討した。

3) 「働きづらさを抱えた人の働く場づくり」小委員会への参画

「はたらく体験事業」の推進について検討した。

4) 居場所づくり小委員会モデル事業「フリースペース」の開催支援

フリースペースは、しんどさを抱える子どもが安心して過ごせる夜の居場所である。週に1回、福祉施設を活用し、子どもが支援者やボランティアと一緒にご飯を食べたり、お風呂に入ったりして過ごす。福祉施設、子どもと専門的に関わるワーカーやボランティアがチームになり、子どもの居場所を地域で作った。

フリースペースカーサ I・II	
実施日時	毎週木曜日 17:30～21:00
参加者	中学生 1 名、小学生 1 名、高校生世代 1 名
場所	特別養護老人ホーム カーサ月の輪
開始時期	平成 27 年 3 月
実施回数	78 回



大学生ボランティアと風船バレー

フリースペースかなで	
実施日時	毎週金曜日 17:00～20:00
参加者	小学生 2 名
場所	小規模多機能型住宅介護事業所 時間の奏
開始時期	平成 27 年 7 月
実施回数	46 回



お誕生日会

フリースペースアイリス	
実施日時	毎週木曜日 17:00～20:00
参加者	小学生 2 名
場所	特別養護老人ホーム近江舞子しょうぶ苑
開始時期	平成 28 年 2 月
実施回数	45 回



みんなでグラグラゲーム

フリースペースしんせい	
実施日時	毎週木曜日 17:30～20:00
参加者	小学生 2 名
場所	特別養護老人ホーム 真盛園
開始時期	平成 30 年 10 月
実施回数	11 回



スタッフと一緒に工作

4) 遊べる学べる子ども食堂実行委員として参画

「遊べる・学べる淡海子ども食堂」は、地域ぐるみで子どもを大切にする垣根のない居場所として、食事、学習、遊び等を通して、子どもが安心してだれかとともに過ごすことができる場所を地域の人々の思いと工夫で作っている。市内で 15 カ所、県内で 115 カ所と大きく広がっており、大津市社協では、立ち上げ支援、継続支援等を行っている。

	子ども食堂名	実施団体名	特徴	学区	実施場所
1	子ども食堂 平野学区のぞみ	平野学区 母子福祉のぞみ会	母子家庭OGが現役子育て母子世帯を支えるために開催。	平野	平野市民センター
2	晴嵐 みんなの食堂	NPO法人 CASN	商店街・学区社協・健康推進委員・大学生・NPO法人等との連携。	晴嵐	栄3自治会館・らんらんサロン

3	おいわか子ども食堂 「おいで屋」	社会福祉法人 真盛園 老いも若きも	平常時から地域の居場所とな っている施設で子ども食堂を 実施。	坂本	老いも若きも
4	しらゆり子ども食堂	チームしらゆり ボランティアの会	子どもたちは学童保育が終了 後直接参加。	平野	しらゆりデイサービス
5	出会い食堂 よっといで～	若葉町自治会 ピアンネ	自治会役員を中心に開催。学 区外の親子も受け入れ	唐崎	唐崎苑わかば集会所
6	キッズカフェ・ エンジェライト	子育て Happy エンジェライト	母子家庭の母子と外国籍の子 どもが参加。	膳所	古いカフェ恐竜や
7	田上っ子食堂	田上青少年学区民会 議	青少年学区民が地域の人を巻 き込んで実施。	田上	田上市民センター
8	子ども食堂 「ひよしだい」	日吉台学区社会福祉 協議会	学区社協での実施。	日吉台	日吉台市民センター
9	ぜぜ子ども食堂	ぜぜ子ども食堂運営 委員会	地域のお寺・民生委員等との 連携。	膳所	膳所ふれあいセンター
10	Z e Z eまなびや	Z e Z eまなびや	そろばん塾の開催。母子家庭 が参加。	膳所	天理教湖南分協会
11	子ども食堂 ぱっぱ屋	冒険遊び場小松プレ ーパークをつくる会	野外でのアウトドアクッキン グを実施。	小松	南小松コミュニティ広場
12	eatalk	こどもソーシャルワ ークセンター	中三学習会に参加している子 どもに声かけ。	長等	こどもソーシャルワーク センター
13	かたばみ食堂	堅田の子を見守る 《かたばみ》の会	中学生が対象。	堅田	堅田市民センター
14	坂本民主食堂	しが健康友の会	診療所が主体となり実施。	坂本	しが健康友の会ホール
15	子ども食堂まごころ レストラン	チェルキオ	児童クラブへの声掛け。瀬田 東学区社協寺子屋と連携。	瀬田東	瀬田東市民センター

・ 追悼事業

1) 無縁墓地、旧大津陸軍墓地の巡回法要

例年、無縁仏ならびに旧陸軍墓地に埋葬納骨されている諸英霊の冥福を祈るため巡回法要を実施しているが、平成30年度は台風20号の影響を受け、旧陸軍墓地と無縁仏巡回法要を中止とした。これらの法要は、西福寺で執り行う総合法要と合わせて行うこととし、諸霊のご冥福をお祈りさせていただいた。

日 時 平成30年8月24日(金)
総合法要 西福寺(大津市春日町6-10)
導 師 西福寺 黒川 上人(総合法要、旧陸軍墓地)

2) 功労者顕彰碑法要

本会に功績があり、故人となられた方に対して感謝の意を表する「功労者顕彰碑」前において追悼法要を実施した。

日 時 平成30年8月24日(金)
場 所 西福寺(大津市春日町6-10)
導 師 西福寺 黒川 英正 上人

(3) 小地域における福祉のまちづくりの基盤強化

①学区社協の運営と活動への支援を行います

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
学区社協において、地域のニーズを地域で考え、課題を解決していくことができるよう、学区社協地域福祉活動計画の作成及びそれに基づく活動を支援するなど、地域福祉活動の基盤づくりを行う。	石山学区において、役員会・地域懇談会を重ね、計画素案まで進行。計画作成の中で、地域における助け合い活動の必要性の声があがり、計画作成と同時に地域でボランティアの募集を進めた。	まちづくり協議会の立ち上げの動きがある中で、学区社協の立ち位置や役割について計画化を進めていく。

②福祉委員の役割の明確化を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
福祉委員は身近な地域でのサロン活動や見守り・声かけ、支えあい活動の中心となり、自治会と学区社協とのつなぎ役を担っている。今後も福祉委員の役割や位置づけ、民生委員児童委員との関係を明確にするとともに、あり方について検討を行う。	学区社協会長会役員で福祉委員の現状や課題について話し合いを行い、役割・任期・現状等について、情報共有と検討を行った。学区社協ごとに、福祉委員活動の見える化や選択制など工夫がみられる。	学区ごとの特性や歴史の違いが大きく、全市統一した役割等の提示は難しく、学区ごとに役割や活動づくりを進める。

主な事業

・ 民生委員児童委員の活動支援

市内 36 地区の民生委員児童委員協議会連合会の事務局として、民生委員児童委員を対象とした相談活動セミナーや民生委員児童委員活動を支援した。

- ・ 役員会(毎月)
- ・ 定例の会長会、理事会(毎月)
- ・ 民生委員大会、総会、研修会、OB会(湖風会)
- ・ 各専門部会(高齢者部会、児童部会、生活保健部会、障害者部会、主任児童委員部会、広報部会)ほか

・ 市民生委員児童委員協議会連合会事業の支援

平成 29 年度、民生委員制度 100 周年記念事業として、「見守り活動共有化指針～地域で一緒に進めるために～」を作成した。平成 30 年度は、この指針の内容を地域で共有するために「地域普及版」を作成し、地域での共有に利用していただいた。



・学区社協活動の運営の支援

1) 定例学区社会福祉協議会会長会議

学区社協では、地域の福祉活動を進め、実践や体験をとおして住民福祉の向上のため様々な取り組みを実施している。そこで、本会の活動方針の伝達や福祉情報の提供、さらには学区相互の交流をはかるとともに、福祉問題について協議することを重点に学区社協会長会議を開催した。定例会後にはブロックミーティングを行った。

学区社協会長会議の日程

月	種類	開催日	場所
4	定例	4月19日(木)14:00～	大会議室
5	定例	5月17日(木)14:00～	ホール
6	事務局長合同	6月21日(金)14:30～	ホール
7	定例	7月19日(木)14:00～	大会議室
9	民児協会長合同	9月20日(木)14:30～	大会議室
10	定例	10月18日(木)14:00～	大会議室
11	定例	11月15日(木)14:00～	大会議室
1	定例	1月11日(金)10:30～	大会議室
2	定例	2月21日(木)14:00～	大会議室
3	事務局長合同	3月28日(火)14:00～	ホール



6月学区社協会長・事務局長合同会議



定例会議

1) 学区社協会長会役員会

平成29年度に会則を定め、学区社会福祉協議会会長会に関する運営事項等を定め、ブロック毎に7名選出し、会長1名、副会長6名を5月の学区社協会長会にて選任した。

	氏名	ブロック	学区
会長	杉本 晋一	比 叡	下阪本
副会長	田中 勉	志 賀	和 邇
副会長	伊藤 博	北 部	葛 川
副会長	西川 靖一	中 部	逢 坂
副会長	吉村 哲	中南部	膳 所
副会長	岡田 博二	南 部	大 石
副会長	岸本 佳典	東 部	瀬田北



・学区社協会長会及び研修事業

学区社協会長視察研修

日 時 平成 31 年 1 月 11 日 (金) ～12 日 (土) 2 日間
 研 修 先 1 日目：NPO 法人 暮らしづくりネットワーク北芝
 2 日目：第 12 回 全国校区・小地域福祉活動サミット in 豊中
 参 加 者 26 名



NPO 法人 暮らしづくりネットワーク北芝の研修の様子



・ブロックごとの社協連絡会の実施

ブロック別学区会長・事務局長連絡会議の開催

隣接学区の社協が、お互いに情報交換をすすめながら、全市的に統一された組織活動へと発展するために、市内を 7 ブロックに分け、ブロック別に会長・事務局長の定例的な連絡会や各種の講座・研修会を実施した。

ブロック社協代表学区会長・事務局長名簿 (敬称略)

ブロック名	代表学区社協	会 長	事務局長
志賀ブロック	和 邇 学 区	田中 勉	中野 千奈美
北 部 ブ ロ ッ ク	葛 川 学 区	伊藤 裕	宮寄 源之
比 叡 ブ ロ ッ ク	下 阪 本 学 区	杉本 晋一	大西 克敏
中 部 ブ ロ ッ ク	逢 坂 学 区	西川 靖一	磯田 幸男
中南部ブロック	膳 所 学 区	吉村 哲	河本 満津秀
南 部 ブ ロ ッ ク	大 石 学 区	岡田 博二	谷口 芳右
東 部 ブ ロ ッ ク	瀬 田 北 学 区	岸本 佳典	間宮 昭博

効果：ブロック連絡会や事業を通して、情報交換を行いながら、各学区社協活動の活性化につながった。

志賀ブロック社協連絡会 (平成 18 年 8 月スタート) 4 学区社協

テーマ：地域福祉の充実～つながろう志賀の福祉のまちづくり～
 (小松、木戸、和邇、小野 : 事務局→和邇学区)

回	日時	場所	特記議題内容
1	6 月 12 日 (火) 10 : 00	木戸支所	事業報告・決算/事業計画・予算について 共同募金街頭募金について 志賀健康いきいき祭について
2	10 月 9 日 (火) 16 : 10	和邇公民館	共同募金 (街頭募金) 結果について 歳末たすけあい募金封筒について
3	12 月 4 日 (火) 10 : 00	木戸支所	志賀健康いきいき祭について
4	3 月 5 日 (火) 10 : 00	木戸支所	来年度事業について

第6回志賀健康いきいき祭

- 日時 平成30年11月10日(土)
 会場 和邇市民体育館、和邇文化センター
 参加者 351名
 内容 ①健康 健康測定(血圧、握力、骨密度、血管年齢、前屈、腹筋など)
 健康体操
 ②医療 志賀日赤の健康教室
 ③福祉用具の展示・体験
 ④その他 キッズコーナー ほか



毎年楽しみにしている人、定年を初めて参加した人など、地域で定着と連携が広がっています。

北部ブロック社協連絡会 (昭和42年4月スタート) 7学区社協

テーマ:「小地域における福祉活動の活性化」
 ~つなぐ、つながる、広がるふれあいの地域づくり~
 (葛川、伊香立、真野、真野北、堅田、仰木、仰木の里 : 事務局→葛川学区)

回	日時	場所	特記議題内容
1	6月6日(水) 16:00	柿の里 会議室	総会(事業報告・決算、役員選出、事業計画・予算) 研修会(講師:堅田あんしん長寿相談所)
2	7月24日(火) 11:00	源六(葛川)	各学区の事業紹介、情報共有
3	3月11日(月) 16:00	じん(堅田)	各学区情報共有、平成31年度事業検討

北部ブロックふれあいサロン交流会

- 日時 平成30年10月26日(金) 13:30~
 会場 真野しょうぶ苑 地域交流室
 参加者 74名(ふれあいサロン代表者、学区社協役員、民児協会会長 他)
 内容 北部7学区で開催されているふれあいサロンの代表者どうしの交流会



大津市医師会・社会福祉協議会コラボ出前講座

- 日時 平成30年11月24日(土) 14:00~15:30
 会場 真野しょうぶ苑 地域交流室
 講座名 「不眠克服講座」
 講師名 バイオメンタルクリニック 石田 淳医師
 参加人数 20名



視察研修会

日 時 平成 31 年 2 月 13 日 (水) 7 : 40 ~ 17 : 00
 会 場 川村義肢株式会社 (大阪府大東市)
 参加者 20 名
 内 容 川村義肢 (株) のショールームや製作工場を見学し、障害当事者にとっての義肢や義足について学び理解を進めた。



比叡ブロック社協連絡会 (平成 12 年 4 月スタート) 5 学区社協

テーマ : 「お互いさまの支え合い つながろう ! 比叡ブロック」
 (雄琴、日吉台、坂本、下阪本、唐崎 : 事務局 → 下阪本学区)

回	日 時	場 所	特記議題内容
1	5 月 21 日 (月) 14:00	坂本市民センター	決算、予算、計画、テーマ、情報交換
2	9 月 14 日 (金) 14:00	坂本市民センター	地域福祉交流研修会の報告 先進地視察研修について 情報交換
3	12 月 10 日 (月) 17:30	柿の里	先進地視察研修の報告 情報交換

比叡ブロック社協「地域福祉交流研修会」

日 時 平成 30 年 7 月 2 日 (月) 14 : 00 ~ 16 : 00
 場 所 比叡ふれあいセンター 大会議室
 参加者 71 名
 内 容 「消費者トラブルにご用心 ! ~地域で目指そう、賢い消費者」
 講師 大津市消費生活センター



消費者トラブルの未然防止に向けて、地域での情報提供の契機となる研修会となった。

比叡ブロック社協「先進地視察研修会」

日 時 平成 30 年 12 月 4 日 (火) 8:00 ~ 17:00
 視察先 川村義肢株式会社
 参加者 40 名
 内 容 日本最大の義肢装具製作工場を持つ川村義肢株式会社の会社見学。義肢装具製作の現場を知り、それを必要とする人への理解を深める。

中部ブロック社協連絡会（平成 12 年 4 月スタート）6 学区社協

テーマ：さまざまな出会いの場と機会を

（滋賀・山中比叡平・藤尾・長等・逢坂・中央 : 事務局→逢坂学区）

回	日 時	場 所	議 題 内 容
1	6 月 7 日（木）16:00～	逢坂市民センター 会議室	平成 29 年度事業報告・決算報告報告 年間テーマ、予算・事業計画
2	9 月 5 日（水）10:00～	明日都浜大津 中会議室	ブロック事業について、慶弔に関する申 し合わせについて
3	12 月 5 日（水）15:00～	逢坂市民センター 会議室	地域福祉講座について 先進地視察研修について
4	3 月 6 日（水）10:00～	明日都浜大津 視聴覚室	平成 30 年度ブロック事業の振り返り、仮 決算、平成 31 年度について

中部ブロック 先進地視察研修会

日 時 平成 30 年 11 月 12 日（月）8:50～18:30

研修先 大野木長寿村まちづくり会
（米原市大野木 1090 番地）

内 容 昨年度の地域福祉講座では、大野木長寿村ま
ちづくり会の方に講演にお越しいただいた
こともあり、今年度は視察に行くこととなっ
た。活動拠点を見学。

参加者 38 名
（社協役員、民生委員児童委員、福祉委員等）



中部ブロック 地域福祉講座

日 時 平成 31 年 2 月 4 日（月）10:00～12:00

会 場 明日都浜大津 ホール

内 容 「その時あなたはどのように？中部ブロックで災害が起こったら…
-被災地支援を通して考える-

講演「被災地の現場と災害ボランティアセンター」

グループワーク「災害クロスロード」

参加者 50 名（社協役員、民生委員児童委員、福祉委員、福祉施設）

今年度は中部ブロック施設連絡会に
加入されている福祉施設にもお声か
けし、ご参加いただいた



中南部ブロック社協連絡会（平成 13 年 4 月スタート）4 学区社協

テーマ：ふれあい、つながり、輪になって、笑顔で育つまちづくり

（平野、膳所、富士見、晴嵐：事務局→膳所学区）

回	日 時	場 所	議 題 内 容
1	6 月 6 日（水）10：00～	膳所市民センター 会議室	平成 29 年度 事業報告・決算報告報告 平成 30 年度 年間テーマ、予算・事業計画
2	12 月 5 日（水）15：30～	アヤハレイクサイ ドホテル	情報交換 情報提供者 災害時要支援者情報（避難行動要支援者 名簿）について 長寿政策課 宇田みつみ氏より
3	3 月 6 日（水）10：00～	膳所市民センター 会議室	平成 30 年度 事業結果 平成 31 年度 来年度事業について

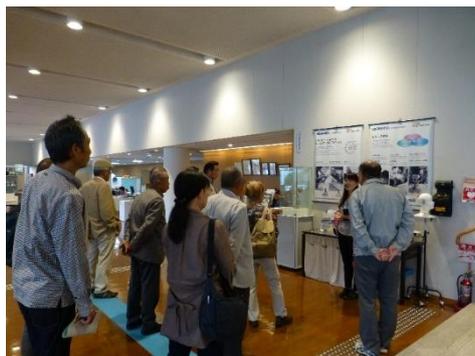
中南部ブロック 先進地視察研修会

日 時 平成 30 年 9 月 21 日

研修先 川村義肢株式会社

内 容 義肢装具や車椅子、リハビリ機器を製造する日本で最大規模の工場の
見学。義肢装具の歴史について学ぶ

参加者 28 名（社協役員、自治連合会、民生委員児童委員、福祉委員等）



南部ブロック社協連絡会（平成 12 年 4 月スタート）4 学区社協

テーマ：地域力を生かし支えあう福祉のまちづくり

（石山、南郷、大石、田上：事務局→大石学区）

回	日 時	場 所	議題内容
1	6 月 11 日（月）	大石市民センター	事業報告、事業計画、活動テーマ決定
2	8 月 30 日（木）	大石市民センター	視察研修について、情報交換
3	3 月 6 日（水）	南郷温泉「二葉屋」	視察研修の振り返り 平成 30 年度の決算報告

南部ブロック 視察研修

日 時 平成 30 年 12 月 12 日（水）

行き先 社会福祉法人しがらき会

「ワークショップ紫香楽」甲賀市信楽町神山 4 9 4-1

「信楽青年寮」甲賀市信楽町神山 5 3 4-8

利用者さんと交流できる時間があってよかった。なかなか知ることのできない施設の現状を学べた。

参加者 24名
 内容 テーマ：地域と施設が共に築いた“障がい者の人たちが働きやすい福祉のまち信楽”に学ぶ。
 「信楽青年寮」創始者である池田太郎氏は糸賀一雄氏、田村一二氏と共に「近江学園」創設に参画した。
 「近江学園」は南郷学区に創設され、南部ブロックに縁が深く、身近に感じられる滋賀県内の福祉施設の見学を企画した。信楽のまちは地場産業である窯業が人手不足であった頃に、働く場を求めた障害のある人たちのニーズとマッチングした。信楽は知的障がいのある人が地域の人と一緒に町の中で働くという全国でも類をみない「福祉の町」「共生の町」と言われている。
 「福祉の町」「共生の町」を施設や地域がどのように築いてきたのか学んだ。



紙漉き体験は利用者さんが主役となり指導

東部ブロック社協連絡会（平成12年4月スタート）6学区社協

テーマ：「子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちづくりをめざして」

（上田上、青山、瀬田、瀬田北、瀬田南、瀬田東：事務局→瀬田北学区）

回	日時	場所	特記議題内容
1	6月16日(土)	瀬田東市民センター	平成30年度事業計画並びに収支決算(案)について 平成30年度活動テーマについて 瀬田あんしん長寿相談所・すこやか相談所より 情報交換
2	12月15日(土)	初駒	東部ブロックサロン交流会の開催について 生活支援物資について 困りごとアンケートについて 情報交換

東部ブロックサロン交流会

日時 平成31年2月23日(土) 10:00~12:00

場所 瀬田東市民センター

参加者 33名

内容 ブロック内にある、ふれあいサロン、子育てサロンを対象にハートフルガーデナー園芸福祉おおつのご協力による「芝ぼうや」を作るレクリエーションや情報交換を行った。



東部ブロックで初めてサロン交流会を開催。来年度も開催してほしいとの声があった。

・学区社協追悼助成事業

戦争により戦死をされた方への英霊供養及び戦争の悲惨さ、平和の尊さを次の世代に正しく伝えるため、地域で行う戦没者追悼事業を実施する学区社協に対して助成金を交付した。

事業を実施した学区一覧

学区名		実施場所
1	葛川	法円寺
2	伊香立	伊香立環境交流館
3	真野	真野忠魂碑
4	堅田	海門山 満月寺（浮御堂）
5	仰木	仰木忠魂碑前
6	下阪本	下阪本市民センター
7	中央	乗念寺
8	晴嵐	鳥居川御霊神社
9	石山	石山寺忠魂碑／西蓮寺
10	南郷	石山寺忠魂碑／西蓮寺
11	田上	田上戦没者忠魂碑前
12	瀬田北	南大萱霊園
	瀬田東	

（４） 災害時にも強い支援体制づくり

①常設災害ボランティアセンターの充実を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
非常時の被災者支援活動を円滑に進めるため、平常時から各種団体との連携を強化するとともに、ネットワークを構築し、調査・研究、訓練を継続的に行うなど、非常時にセンターの機能が速やかに発揮できるよう取り組む。	大津市総合防災訓練において、地域の学区社協や民児協と現地災害ボランティアセンター設置を想定した訓練を実施した。また、学区社協やブロック単位での研修会で災害ボランティアセンターの役割など伝える機会を得た。	災害の種別や被害規模を想定して、災害ボランティアセンターの本部・現地サテライトの設置場所などシュミレーションを行う。

②地域の力を活かした災害時の体制づくりに努めます

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
大学や企業、福祉施設等との連携を図り、人材や知識、情報などの資源を活用し、安全で安心して暮らすことができる災害に強いまちづくりを目指す。	平成30年7月豪雨災害に伴い、ボランティアバスを運行した。龍谷大学学生、施設連絡会、防災士会、事前登録者など多くの方と共に現地での支援を実施しました。災害時に支援をお願いできる関係づくりにつながった。	災害ボランティアをテーマにした研修やイベントを通じた中高生・大学生との連携を進める。

主な事業

・大津市災害ボランティアセンター（被災者生活支援センター）

大津市災害ボランティアセンターでは、近隣地域での被災地支援として「ボランティアバスの運行」、滋賀県社会福祉協議会からの要請による「岡山県総社市・倉敷市災害ボランティアセンターの運営支援」に職員を派遣した。本会職員の中にも被災地支援の経験が少ない職員が多いため、他市町の社協職員や関係団体などとの関係づくり、被災された住民の方に寄り添った支援など、被災地での支援の取組みや活動について学ぶことができた。

一方で、本市で被災した際のボランティアによる支援を効果的にすすめるため「人・物・資金・情報」などの整備や災害ボランティアセンターの運営、現地サテライトの立ち上げなど、災害時を想定した取組みや備えの必要がある。

1) 災害ボランティア事前登録制度の推進

災害時のボランティア活動が迅速かつ効果的に行なえるように、災害ボランティア活動を希望する個人又は団体の事前登録を推進した。

31年3月末現在の事前登録者数 273名（個人：55名 団体：4団体218名）
※30年度3月末 244名（個人：53名 団体：4団体191名）

また、災害ボランティア事前登録者の顔の見える関係づくりを推進するため、登録者を対象とした交流会を実施した。

参加者から災害ボランティア活動の経験をお話いただき、本会からは平成30年7月豪雨による現地でのボランティア活動、これまでの災害ボランティア活動などの情報提供を実施した。

日 時	①平成30年6月22日（金）14：00～15：30 ②平成30年8月29日（水）14：00～15：30
参加者	①災ボラ事前登録者 9名（個人5名、団体4名） ②災ボラ事前登録者 9名（個人9名、団体0名）
場 所	①②大津市社協ボランティア活動室

2) 大津市総合防災訓練において災害ボランティアセンター設置・運営訓練を実施

現地災害ボランティアセンターの設置・運営を想定した訓練でもあり、地元の比叡ブロック社協をはじめ、下阪本民児協、龍谷大学ボランティア・NPO活動センター、滋賀県防災支援赤十字奉仕団、災害ボランティア事前登録者、滋賀県防災士会などの多くの関係機関と協働して訓練を実施した。

地域や関係機関と訓練することにより、改めて災害ボランティアセンターの運営について考えるきっかけとなった。

日 時	平成30年9月17日（祝）8：00～12：00
場 所	日吉中学校
参加者	訓練参加機関及び人数 55名

比叡ブロック社協（日吉台2・坂本3・下阪本2・唐崎2）、下阪本地区民児協3、龍谷大学ボランティア・NPOセンター7、滋賀県防災支援赤十字奉仕団17、災害ボランティア事前登録者2、滋賀県防災士会4、福祉政策課1、職員12

訓練内容

班	訓練内容
総務	ボランティアセンターの方針を協議
ニーズ・調査	クロスロード、現地調査
オリエンテーション	ボランティア活動へ行く前の注意事項など説明
ボランティア受付	ボランティアにきた方の受付、ボランティア保険確認
マッチング	3～5名で想定のニーズに対して持参する資機材を考える
ボランティア	ボランティア役として受付から出発までの体験



ボランティア受付



オリエンテーション



総務（方針協議）

3) 「災害ボランティア」をテーマにした出会いのボランティアカフェを開催

ボランティアセンターとの共催で活動に出会う・仲間に出会うことを目的にした「出会いのボランティアカフェ」を「災害ボランティア」をテーマに開催した。

終了時には災害ボランティアセンターのあり方や非常食の試食など行った。

また、災害対応ゲーム「クロスロード」を参加者で実施することにより、災害時の支援にも多様な考え方や想い、支援のあり方があることを共有した。

日 時 平成30年11月17日（土）14：00～16：00
場 所 大津市社協ボランティア活動室
参加者 5名（終了後に災害ボランティア事前登録）

4) 災害支援

平成30年7月豪雨

台風7号及び梅雨前線の影響により、西日本を中心に多くの被害が発生した。本会では、常設型の災害ボランティアセンターとして、滋賀県社協と連携して、京都府宮津市、岡山県倉敷市真備町へボランティアバスを運行した。ボランティアバスの運行にあたっては、学区社協、災害ボランティア事前登録、大津市社協施設連絡会などへ参加を呼びかける一方で、新聞にも掲載し広く市民の参加を呼び掛けた。

また、滋賀県社会福祉協議会からの派遣要請に伴い、岡山県総社市災害ボランティアセンター、岡山県倉敷市災害ボランティアセンターへ職員を派遣した。

【ボランティアバス 京都府宮津市】

日 時 平成30年7月18日（月）6：00～17：20
参加者 31名 学区社会福祉協議会（3名）、災害ボランティア事前登録者（3名）、大津市社協施設連絡会（7名）、滋賀県防災士会（1名）、龍谷大学学生（1名）、福祉政策課（1名）、一般（7名）、職員（8名）
活動内容 3件のニーズに対応（主に家屋内外の泥だし）



Vの拠点で自治会館を開放
クーラーもあり安心して活
動できた。



土嚢袋へ土砂を入れる活動
かなりの暑さのため、声を
掛け合いながすすめる。



涼しい部屋で体を休めなが
ら、ボランティア同士の情報
交換・共有を行う。

【ボランティアバス 岡山県倉敷市真備町】

日時 平成30年8月2日(木) 6:00~18:00

参加者 39名 大津市社協13名 他、滋賀県社協26名

災害ボランティア事前登録者(4名)、大津市社協施設連絡会(2名)、
滋賀県防災士会(1名)、一般(1名)、職員(5名)

活動内容 1件のニーズに対応(主に家屋内外の泥だし)



現地のスタッフから活動説明
必要な資機材や場所を確認
班長は大津市社協職員が担う。



高齢者宅において、床下の泥出し・屋外で土砂を土嚢袋に入れる
二手に分かれて活動。熱中症対策で15分活動、15分休憩とした。
被災者とのコミュニケーションも大事にして活動を行う。



【総社市災害ボランティアセンター】

(第1クール)

日程 平成30年7月20日(金)~7月24日(火)5日間

職員 葛城朋子

支援内容 ボランティア・物資受付、資機材管理など

【倉敷市災害ボランティアセンター】

(第8クール)

日程 平成30年8月19日(日)~8月23日(木)5日間

職員 岡田秀清・井上由美

支援内容 現地サテライトでニーズ調査、マッチング、資機材管理など

(第13クール)

日程 平成30年9月8日(土)~9月12日(水)5日間

職員 岡田秀清・沢本まゆ子

支援内容 現地サテライトでマッチング、資機材管理など

(第18クール)

日 程 平成30年9月28日(土)～10月2日(火)5日間

職 員 岡田秀清・植松美帆

支援内容 現地サテライトの台風対策、ニーズ調査、資機材管理など

(第21クール)

日 程 平成30年10月18日(木)～10月21日(日)4日間

職 員 大岡由起・奥野佑樹

支援内容 現地サテライトでマッチングなど

5) 災害復興基金

市内外において発生した地震、豪雨等による災害時又は災害復興支援に伴う経費及び防災のための経費に充てる財源として積み立てしている。

災害復興基金額 18,910,401円(31年3月末現在)

・ 災害時助け合いネットワーク事業にかかる市との協働

1) 災害時助け合いネットワーク事業

災害時のためのネットワークの充実を図るため、日ごろの地域見守り活動の一環として、民生委員児童委員によるネットワーク台帳の推進に取り組んだ。

ネットワーク台帳登録数

平成31年3月31日現在

実人数	対象区分							
	寝たきり	認知症	独居	高齢者のみ	昼間独居	障がい	要支援	他
21,597	349	708	6,602	9,604	1,423	2,381	1,280	2,520

・ 南三陸町社協との友好協定事業

友好協定後6年となった平成31年度は、南三陸町社会福祉協議会から役職員12名が大津市へお越しになり、交流を行った。

南三陸町の東日本大震災からの復興状況と現状についての報告会や、懇親会を実施した。役員同士は平成24年の友好協定締結時以来となり、交流の良い機会となった。

日 時：平成30年7月20日(金)～22日(日)

参加者：南三陸町社協役員5名 職員7名

・ 募金型自動販売機の設置

1) 募金型自動販売機の設置

地域福祉活動の財源の一部として活用した。

本会広報ひまわりを掲示し、広報活動としても活用した。

2) 募金型自動販売機の設置状況

No.	設置場所	詳 細
1	明日都浜大津3階	プロムナード入り口
2	市役所新館2階	新館2階の総合防災課前
3	木戸支所	市民センター内自販機コーナー
4	木戸老人福祉センター	木戸老人福祉センター広間
5	明日都浜大津2階	2階ガス灯広場
6	瀬田北支所	市民センター前植え込み付近
7	瀬田東支所	市民センター右手植え込み付近
8	堅田駅前	堅田駅前駐輪場
9	晴嵐支所	市民センター道を挟んで正面
10	滋賀支所	市民センター駐車場側
11	大津聖苑	待合ロビー付近
12	大津市葬祭センター	センター出入口付近
13	志賀聖苑	待合ロビー付近
14	志賀葬祭センター	センター出入口付近

目標3) 新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり

(1) ボランティアやNPO活動の推進

①市社協ボランティアセンターの機能の充実に努めます

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
多様化するボランティアニーズに対応するため、幅広い視点や連携のもと、相談援助機能の充実やボランティアリーダーの育成など、ボランティアセンターの機能強化を図る。	ボランティアセンター運営委員会で退職シニアや若者の現状を共有し、地域活動やボランティア活動に参加する方法などを協議した。その結果、より多くの方が地域活動やボランティア活動に参加できるようにおおつボランティアシステムを構築した。	日頃からのボランティアニーズを整理し、傾向や課題の整理し、ボランティア運営委員会で検討を行う。

②ボランティアやNPOとの連携の場をつくります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
地域で展開される活動は、人や団体がつながっていくほか、「思いがけない活動」や「楽しい活動」に発展していくことが期待できる。今後も、地域で活動している人や団体が活動を通じて多様な「つながり」をつくることのできるよう、連携・交流の場づくりを推進する。	ボランティアやNPOが取り組む研修・講座・イベントへの助成を通じて、多くの参加者が集まり、その後ボランティア活動に発展するなど、ボランティアグループの活性化と新たなつながりづくりにつながった。	効果的な活動につながった事例を広報することにより、より多くのボランティアやNPOの活性化とつながりづくりを目指す。

主な事業

・ボランティアセンター運営事業

1) 需給調整事業 (単位：件数)

■相談経路

項目	平成30年度	平成29年度
電話・FAX	1,424	1,436
来会	757	659
訪問	93	44
メール	163	70
その他	53	23
合計	2,490	2,232

■相談者内訳

項目	平成30年度	平成29年度
個人	181	149
男女	212	213
小計	393	362
個人		
学生	20	21
勤労者	154	109
シニア	204	203
不明	9	29
V団体・サロン	1,077	960
地域団体	289	174
施設・病院	354	339
行政(包括含む)	115	105
学校	181	203
企業	35	51
他市町社協	42	30
その他	4	8
合計	2,490	2,232

カウント方法は延べ件数

■相談内容

項目	平成30年度	平成29年度
活動希望		
一般	178	173
課題	38	35
依頼		
出前	420	384
イベント支援	92	78
個別支援	76	48
その他	25	10
寄付	53	58
情報提供	113	83
グループ運営	271	217
企業の社会貢献	8	9
施設のV受入・ボラセン運営	0	1
視察講師	9	13
講座	105	52
助成金	196	181
災害	65	36
ボランティア保険	749	683
その他	24	34
学校		
小学校	103	125
中学校	92	71
高等学校	19	21
大学・短大	0	2
その他	7	22
合計	2,643	2,336

傾向と課題

- ・ 全体的な傾向は平成 29 年度の件数とほぼ変わっていないが、被災地支援の関係でボランティア保険の受付が増えたことや、ひろげようボランティア助成金の申請や活用についての支援に力を入れたところである。
- ・ 寄付に関しては、受入れ先に「施設連絡会の会員施設」が増えたことにより、スムーズに調整できるようになり、合わせて施設側からのうれしい声を届けることができた。
- ・ ボランティアグループの運営においては、グループに所属する方の高齢化問題、新たな会員確保などの相談が毎年増加しており、グループの活性化に向けた支援をする一方で、今後は解散した後の整理についての相談も増加してくるのではと感じる。
- ・ 個別支援においてはフットワークの軽いボランティアさんの力を借りた支援や既存のサービスの範囲での支援に留まっており、対応できないケースもある。

2) 啓発活動事業

社協ニュースひまわりでボランティアページ掲載

Facebook や Twitter、社協ホームページ掲載

3) 発掘・登録・育成事業

①ボランティア登録

ボランティア活動への参加促進のための情報提供や活動紹介、交流・研修等の活動支援を行うことを目的として、ボランティアグループの登録を促進した。

また、ボランティア情報の効果的な情報発信や相互をコーディネートするためのシステムづくりに着手するとともに、グループ登録の更新を行った。

- ・ グループ登録 150 団体 (平成 30 年度新規登録 5 グループ)

②大津市ボランティアセンター登録グループ交流会の開催

大津市ボランティアセンターに登録されているボランティアグループどうしの交流を目的に開催した。

「普段交流することのない方々のお話を聞けて良かった」「会員の募集方法など参考になった」という意見が多かった。助成金の報告では「参考になった」「助成金制度をこれからも続けてほしい」という意見があった。

日 時 平成 31 年 3 月 17 日 (日) 10:00~12:00

場 所 明日都浜大津 4 階ホール

参加者 54 名 (37 グループ) 活動展示 4 グループ

内 容 報告会「平成 30 年度 ひろげようボランティア」助成金

- ・ 比叡山坂本観光ボランティアガイドの会「石積み」 山本克也 氏
- ・ 笛吹童子 隠岐純一 氏

グループ交流の話題…困りごとや情報共有、助成金の活用、相談について



新しいシステムについての説明



助成金の報告を聞き、どのような活動に助成されるのかが分かりました

助成団体から活動報告

③おおつボランティア情報システムの構築

大津市内でボランティアや市民活動に取り組むグループに「ボランティアセンター登録」していただき、グループの活動状況等をインターネットで公開することにより、ボランティア活動をはじめたい方、ボランティアに援助をおねがいしたい方、地域団体・グループなどにいつ・どこで・どんな方とどんな活動を行っているのかなどの情報が分かるよう、効果的な情報発信や相互をコーディネートするための「ネットワーク」作りを進めるため、当システムを構築した。



カフェに参加したことがきっかけとなり、ボランティアグループに加入して活動を始められるなど、“新たな活動者の発掘と育成”につながった。

4) 講座・研修・組織化事業

①出会いのボランティアカフェの開催

ボランティアを始めてみたい方を対象に、毎回テーマを設定し、ボランティアグループの“活動紹介”と“体験”をメニューに組み入れつつ、参加者どうしがカフェ形式で情報交換しあえるばとしてこの事業を行った。

ボランティアに出会い、仲間と出会う地域福祉活動の第一歩と位置づけ、既存のグループに参加し定着された方もあり、グループの活性化にも良い影響を与えている。

対 象：ボランティアを始めたい方・活動をしている方、興味関心のある方 等

場 所：明日都浜大津 4階ふれあいプラザホール

内 容：ボランティアグループの“活動紹介”と“体験”

カフェ形式による情報交換・相談

日程	テーマ	参加者
5月19日	手話ボランティア	16名
6月16日	ものづくりボランティア	18名
7月20日	昭和の遊びボランティア	10名
10月16日	園芸ボランティア	10名
11月17日	災害ボランティア	5名
12月18日	点訳ボランティア	25名

ボランティアカフェへの支援協力

大津ろうあ福祉協会、地域福祉サポーターとんかち、ケアクラフト 002

昭和の遊び普及委員会、ハートフルガーデナー園芸福祉おおつ

大津点訳グループ、点訳グループしずく

②施設のボランティア担当者スキルアップ研修の開催

「施設にとってボランティアとは」、「ボランティアの受け入れ時の配慮」等について、担当者とともに学び、地域に開かれた施設づくりについて考える機会とするとともに、

ボランティアが活動しやすい環境づくりにつなげることを目的に開催した。

今年度は、保育分野の施設にもご参加いただき、より多くの関係者が集う場となり、講演や事例検討をとおして、参加者同士のスキルアップと関係づくりの場としても効果があった。

日 時 平成 30 年 7 月 10 日 (火) 14 : 00-16 : 00
 受講者 13 名
 対 象 施設でボランティア担当している職員
 場 所 明日都浜大津 5 階大会議室
 内 容 ①講演「施設にとって、ボランティアは？」

参加者からは、他の施設の話
を聞くことがないので、参考
になったとの声があった。

～利用者・ボランティア・職員 みんなが輝くために～

講師 日本ボランティアコーディネーター協会理事

龍谷大学 社会学部地域福祉学科

教授 筒井 のり子 氏

- ②交流会・ボランティア担当者として嬉しかったこと、困ったこと
 ・継続してボランティアさんに来てもらうには？
 ・ボランティアさんを受け入れられる際の配慮は？ など

・ ボランティア保険加入窓口の設置

ボランティア活動保険

・ Aプラン	6,449 人 (平成 29 年度 6,459 人)
・ Bプラン	487 人 (" 380 人)
・ 天災 Aプラン	239 人 (" 249 人)
・ 天災 Bプラン	124 人 (" 70 人)
ボランティア行事保険	1,473 件 (" 1,850 件)
福祉サービス総合補償	51 件 (" 51 件)
送迎サービス補償	0 件 (" 3 件)
※保険事故報告件数	19 件 (" 21 件)

ボランティア活動中
の事故に対応するた
め保険の加入をすす
めた。

・ 民間団体助成金推進事業

ボランティアグループや市民活動団体が、新たな事業の推進や展開が図れるよう、民間団体による助成事業の広報や助成に伴う相談支援を行った。

また、社会福祉協議会の推薦が必要な助成事業で、本会が推薦した助成事業と交付決定状況は下記のとおりである。

助 成 金 の 内 訳	推 薦 件 数	決 定 件 数
第 35 回「老後を豊かにするボランティア活動資金」助成 みずほ教育福祉財団	4	2
平成 30 年度ふれあい基金	14	7
公益財団法人大阪ガスグループ「高齢者福祉助成」	10	8
2018 年度「元気シニア応援団体に対する助成活動」	3	1
大和証券福祉財団「平成 30 年度ボランティア活動助成」	1	0
平成 31 年度公益財団法人キリン福祉財団「キリン・地域のちから応援事業」	3	0
公益財団法人さわやか福祉財団「連合・愛のキャンパ」	1	0
2019 年度しがぎん福祉基金	10	4
合 計	44	22

・ボランティアグループ、NPO、市民活動センターとの連携

ボランティアの調整をしている機関との情報共有や各機関が主催する事業に参画してボランティアセンターのPRを行うと共に、相互に広報などに協力するなどボランティアや市民活動を推進した。

1) 連携機関が実施する事業への参画

①労福協のまつりでの福祉体験の実施及び防災についての啓発

日 時：平成 30 年 12 月 16 日（日）11：00-15：00

場 所：大津市勤労福祉センター

内 容：共同募金の啓発「寄付をしてわたがしをつくってみよう」



②滋賀県レイカディア大学「地域活動体験学習」に関わる支援

滋賀県レイカディア大学卒業後の地域活動をより確かなものにしていくため、地域との関わりやつながりを自らつくる体験「地域活動体験学習」を実施しており、大津市ボランティアセンターでは、ボランティア活動についての説明を行い、体験したい内容などを聞き取りして体験先を紹介した。

日 時：平成 30 年 11 月 22 日（木）29 日（木）10：30-12：00

内 容：ボランティアセンターの紹介、ボランティア活動の説明

ボランティア活動の実践紹介、ボランティア活動保険の説明

（協力：おやじのたまり場、レイカディア大学同窓会大津支部）

対 象：第 41 期 40 人

③おおつ障害者週間「ほかほかまつり」実行委員会への参画

・ボランティアセンター運営委員会の開催

大津市ボランティアセンター運営委員会

ボランティアセンターの適切な運営を図るために、センターの事業計画・予算などに関して多角的な視点からご意見をいただくため、大津市ボランティアセンター運営委員会を開催した。

1) 委員名簿 任期：平成 29 年 11 月～平成 31 年 11 月（敬称略）

No.	選 出 区 分	氏 名	所 属 団 体 等
1	学識経験者	筒井 のり子	龍谷大学
2	学区社会福祉協議会役員	戸知谷 俊治	平野学区社会福祉協議会会長
3	学区社会福祉協議会役員	亀井 須美枝	藤尾学区社会福祉協議会会長
4	ボランティア市民活動団体関係者	松井 佐彦	おやじのたまり場代表
5	ボランティア市民活動団体関係者	金山 幸子	おおつ傾聴ボランティアダンボの会事務局長
6	福祉施設関係者	山本 和彦	高齢者総合福祉施設 桐生園
7	企業・団体関係者	元田 栄三	株式会社まちづくり大津取締役・事務局長
8	教育関係者	藤井 一彦	大津市教育委員会 学校教育課
9	学生	藤村 一樹	龍谷大学ボランティア・NPO活動センター代表
10	労働者福祉団体関係者	内海 善夫	大津地区労働者福祉協議会
11	関係行政機関	仲川 慶	大津市福祉子ども部 福祉政策課

2) 役員会の開催

委員会を開催するにあたり、当日の議題などを協議するため役員会を開催した。

- ①日 程 平成 30 年 4 月 10 日 (火) 10 : 00-12 : 00
- ②日 程 平成 30 年 8 月 17 日 (金) 10 : 00-12 : 00
- ③日 程 平成 30 年 11 月 27 日 (火) 10 : 00-12 : 00
- ④日 程 平成 30 年 2 月 14 日 (木) 10 : 00-12 : 00

3) 委員会の開催

- 第 1 回 日 程 平成 30 年 4 月 20 日 (木) 15 : 00～17 : 00
会 場 明日都浜大津 5 階 中会議室
内 容 ・ ボランティア・市民活動グループへの活動助成事業
「ひろげようボランティア」助成金募集要項 (案) について
・ 平成 30 年度大津市ボランティアセンターの運営について
テーマ「退職シニア・若者を巻き込む方法」
- 第 2 回 日 程 平成 30 年 8 月 22 日 (水) 13 : 30～15:30
会 場 明日都浜大津 5 階 大会議室
内 容 ・ 「ひろげようボランティア」助成金の審査について
- 第 3 回 日 程 平成 30 年 12 月 7 日 (金) 15:00～17:00
会 場 明日都浜大津 4 階 ふれあいプラザホール
内 容 ・ ボランティア検索システム構築経過について
・ 平成 30 年度大津市ボランティアセンターの運営について
テーマ「若者がボランティア活動や地域活動に参加する方法について」
- 第 4 回 日 程 平成 31 年 2 月 26 日 (火) 13:30～15:30
会 場 明日都浜大津 5 階 大会議室
内 容 2019 年度「ひろげようボランティア」助成金募集要項 (案) について
平成 31 年度大津市ボランティアセンター事業計画 (案) について



ボランティアセンター運営委員会の様子

・ボランティア基金運営事業

大津市における地域福祉の向上を目指して福祉活動にかかわるボランティアグループの自主的で継続的な活動を育成・助長するため、安定した財源を確保することを目的として、「大津市ボランティア基金」を設置している。

ボランティア基金は「ボランティアセンター運営委員会」において管理運営しており、基金の運用益を活用して、ボランティア活動の発展・ボランティアグループの育成につなげている。

これまで大津市ボランティアセンターに登録しているボランティアグループにボランティア活動保険のAプランの保険料助成を実施してきたが、基金の運用益の減少などにより、平成30年度をもって助成を終了する。

一方で、新たなボランティア活動者の参加を促進するため、ボランティアグループや社会福祉施設などが行う、地域住民やボランティア活動に興味関心のある方などを対象にした講座・研修・イベント等にかかる費用を助成する「ひろげようボランティア助成金」を新設し募集を行った。

1) ボランティア基金額

平成30年度末現在 130,000,000円

2) ボランティア活動充実積立金

平成30年度末現在 13,987,369円

3) ボランティア保険料助成額

121グループ 872,900円

4) ひろげようボランティア助成金

申請グループ 11グループ
助成決定グループ 8グループ

助成を受けられたグループの声

- ・講座を開催したら19名の方に参加いただき、その内7名がグループに加入していただいた。
- ・グループの結束力が高まった。など

	グループ名	事業名	助成額
1	古都おおつ観光ボランティアガイドの会	観光ボランティアガイド入門講座	40,000
2	比叡山坂本観光ボランティアガイドの会「石積み」	2020年NHK大河ドラマ「麒麟がくる」ボランティアガイドの養成	37,000
3	おやじのたまり場～セカンドライフサロン～	古都大津観光ボランティア養成講座	50,000
4	地域福祉サポーターとんかち	地域で活動できるボランティア育成のための木工講座	50,000
5	笛吹童子	やさしい・よし笛市民講座	50,000
6	アロハウクレレ&フラ マーブアナ	歌って踊って広げようボランティアの輪	30,000
7	滋賀県中途失調難聴者協会 大津支部	手話講座	35,000
8	音と花と人と	音と花と人との集い（講演）	35,000
	合 計		327,000

(2) 新しい参加者を巻き込んでいく取り組みの推進

①退職シニアの参加促進を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
ボランティアなどの地域福祉活動に興味を持ちながら実践に結びついていない市民を掘り起し、サラリーマンや団塊・シニア世代が、地域福祉の担い手として活躍できるよう、参加機会の拡充や継続的な支援を充実する。	地域福祉担い手養成講座「おやじ塾」を開催、併せて地域で活躍中の団塊・シニア世代向けのパンフレットを作成した。	引続き、地域福祉担い手養成講座を実施し、団塊シニア世代の参加を図るとともに、参加した方への継続的な支援を充実する。

②若者の参加促進を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
中高生や大学生などにボランティア活動や地域活動に参加する機会を提供するとともに、地域への愛着を醸成するなど、まちづくりの活性化を目指す。	地域で展開されるボランティア活動の発信とインターネットを通じて、ボランティア情報の検索ができる「おおつボランティア情報システム」を構築した。	「おおつボランティア情報システム」を広報して、より多くの方の参加を推進する。

主な事業

・ふれあいフォトコンクール開催事業

地域住民がコミュニケーションを深め、ふれあいの輪を大きく広げ、お互いに助け合い支え合う地域社会の実現を目的とし「ふれあい」をテーマに第34回ふれあいフォトコンクールを実施した。

また、昨年度にひきつづき、ふれあいフォトコンクールの入賞作品を掲載した「ふれあいフォトカレンダー」を作成し、市内の福祉施設への配布や高齢者の見守り活動等に役立てられた。

応募作品 289点(一般部門221点、子育て部門68点)
 応募者数 98名(市内41名)
 審査会 9月7日(金)
 カレンダー配布枚数7,994冊

◇入賞作品

【一般部門】

推薦 大津市社会福祉協議会長賞

作品名 「異人さん」

住所 京都府

氏名 村田 寛明

昨今、世界中で日本文化を満喫しようとする傾向の中、流鏝馬の射手の格好したパパが子供にドヤ顔。それがまた微笑ましい写真になりました。



特 選 大津市長賞

作品名 「 やさしさに包まれて 」

住 所 大津市

氏 名 澤井 重隆

どこのお寺でしょうか。昨今は蠟燭を使用する中、灯明に藁火を点すとは、温かい明かりが母子を包んでいます。

フラッシュを使わない撮影が、我が子の安全と健康を願う母親の気持・愛情が灯明の明かりと共に表現された、素晴らしい作品に仕上がりました。



特 選 大津市民生委員児童委員協議会連合会長賞

作品名 「 お相撲さんと 」

住 所 愛媛県

氏 名 乗松 賢二

あと一歩押し出せるかな、力が入った手と足の動きをタイミングよく捉えています。力士の大きさが子供との対比でよりよくわかります。



特 選 南三陸町社会福祉協議会長賞

作品名 「 フラッグを目指して 」

住 所 岡山県

氏 名 中地 稔

どちらが早いかな？駆ける勢いが水しぶきでよく表現できています。応援する人達のボケ具合も良く、3人が浮き立ちました。



特 選 滋賀県写真連盟会長賞

作品名 「 樹の香りに包まれて 」

住 所 京都府

氏 名 片山 智士

場所の設定、レンズワークが素晴らし。映画の一コマの様な切取りで、二人の楽しい雰囲気を見事にまとめています。



特 選 大津写真連盟会長賞

作品名 「 1. 2の3 」

住 所 大津市

氏 名 仲野 隆

近所の公園でのワンシーン。この高さなら怪我する事もないでしょう。ご両親の笑顔、子供達の笑顔が楽しい声となって聞こえる作品になりました。



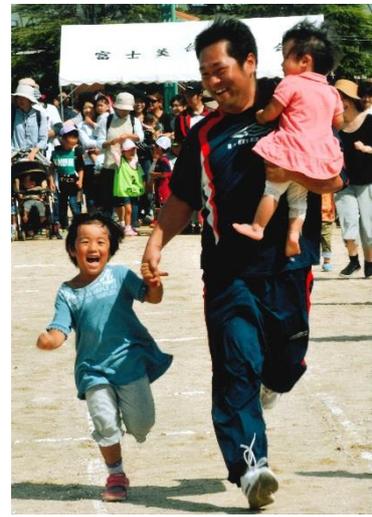
準特選 滋賀県社会福祉協議会長賞

作品名「 パパと力走 」

住 所 滋賀県

氏 名 井上 先夫

町内自治会での運動会の写真です。親子で楽しく走っています。最後まで走り切れるか心配です。思い出が詰まるそんな作品に仕上がりました。



準特選 滋賀県共同募金会長賞

作品名「 ゆかいな家族 」

住 所 香川県

氏 名 三木 雅也

どこかの菜の花畑の一コマ。日の丸構図ですが回りの菜の花を多く入れた事で、素晴らしい作品になりました。



準特選 明日都浜大津賞

作品名「 卒寿のお祝い・ひ孫との初めての出会

住 所 大津市

氏 名 川越 久聖

おばあちゃんとひ孫の初お目見えの一コマ。立場の違うそれぞれ大人の表情がひ孫という一点に向けられ、微笑ましく又支えあう家族の絆を表す作品になりました。



表彰式

日 時 平成 30 年 11 月 10 日 (土) 14 : 00 ~ 15 : 30

会 場 ふれあいプラザ 4 階ホール

内 容 一般部門 (推薦、特選、準特選、入賞、ふれあい賞)、子育て部門 (ゆめっこ賞)、両部門 (ひまわり賞) の表彰・記念品等の授与を行った。後半は、南三陸町社協の三浦局長と吉田氏から、震災後の現状等についてお話をいただいた。



表彰式の様子

(3) 地域で活動している人や団体の新しいつながりづくり

①学区社協地域福祉活動計画作成を通してつながりを広げます

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
学区社協や地域で活動するさまざまな団体、福祉関係者などの参加により、地域の問題解決や活動のさらなる発展を図るため、全学区での地域福祉活動計画の策定を目指す。また、策定過程で学区内の課題を共有し、地域福祉活動への参加の拡大を目指す。	学区社協地域福祉活動計画策定及びそのための懇談会は進んでいないものの、協議体を通じた話し合いの場が新たにでき、地域団体だけでなく、福祉施設や企業などの参画があった。	学区ごとの計画や手引書作成に向けた話し合いの場や、学区やブロックごとに実施する協議体による話し合いの場づくりを進める。

②社会福祉施設・団体・事業所との連携を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
地域福祉の実践に取り組む社協には、新たな福祉ニーズに積極的に取り組むことが期待されている。特に、支援を必要としている人と支援者、また、団体と団体等を調整し、つなぐ役割が求められていることを重視し、社会福祉施設・団体・事業所との連携を推進する。	平成 29 年 4 月に設立した施設連絡会の会員同士がより連携できるように、ネットワークシステムを構築し、情報交換・共有、災害や緊急時の物資の貸し借りなどが進んだ。 お仕事体験会、かぎ預かり事業、子どもの居場所づくり事業も立ち上がった。	福祉施設と地域団体、企業、福祉専門職などが連携し、福祉のまちづくりが推進できるように、施設連絡会、協議体、ブロック社協連絡会等の会議体の連携を図る。

主な事業

・ 歳末たすけあい募金配分事業

市内社会福祉施設配分状況

施設数	79 施設	(平成 28 年度	3 施設)
金額	1,200,000 円	(〃	1,200,000 円)

※平成 30 年度は、施設へのお見舞金にあわせて歳末ふれあいフォトカレンダーを作成し、各施設へ配付した。

・ なんでもコラボプロジェクト実行委員会への協力

企業やボランティア、福祉施設など様々な分野の方が「なんでもコラボプロジェクト実行委員会」を立ち上げ毎年イベントを実施されることに協力している。

当実行委員会では、平成 30 年度も「コラボプロジェクト 2018」として、丸屋町・菱屋町・長等商店街振興組合が地域活性化事業として開催される「お坊さんめぐり大会」で、障がい者・外国の方等社会的弱者の社会参加と交流を推進することを目的に協賛し参加された。

1) 実行委員会開催

5 回 (4/10、5/30、6/26、7/20、8/9)

2) A 4 版百人一首の追加作成

2 日間 ボランティアや就労支援事業対象者など延べ 28 名が参加

3) 「お坊さんめぐり大会」

日 時：平成 30 年 8 月 25 日 (土) 13:00-16:00

内 容：①百人一首ラリー

お店に掲示している百人一首の絵札を貼ってもらい、指定された札を掲出

している店の名前を埋めるラリー形式のゲームを開催

②お坊さんめくり体験

大判百人一首を使って、障がい者など誰もがお坊さんめくりを体験できるブースを設置

③プチえんにち

障がい者など誰もが楽しめる射的コーナーを設置

参加者 当日参加者 延べ 135 名、当日スタッフ 23 名
実行委員会 京阪電車 21 駅の顔作りグループ、竹田謄写堂、生活協同組合コープしが、やまびこ支援センター、BRAH=art (ブラファート)、個人ボランティア



お坊さんめくり体験の様子



プチえんにちの様子

・牛乳パック収集事業

本会においては、牛乳やお茶、ジュース用の飲料用紙パックの収集と運搬について、大津市と委託契約を締結し、障がい者福祉事業所に再委託する形で事業を実施している。

毎年収集量が減少していく中、本年度は関係の障がい者福祉事業所職員と現状の確認と今後の方向性について意見交換をした。

1) 障害者福祉作業所及び年間運搬量

障害者福祉事業所	平成 30 年度運搬量(kg)	平成 29 年度運搬量(kg)
Seipれもん会社	4,900	6,860
ノエルしごとの家	1,830	1,800
さくらはうす	900	930
若鮎の家	1,420	1,530
社会就労センターあおぞら	870	1,060
合計	9,920	12,180

2) 牛乳パック収集事業担当者会議の開催

日時 平成 30 年 7 月 9 日 (月) 10 : 00 ~ 11 : 30
内容 今後の事業展開、情報交換

・HANA-WAプロジェクトへの協力

PCR (=ペットボトルキャップリサイクル) 作業所連絡会と淡海フィランソロピーネットが協力して行っている、ペットボトルキャップから再生されたプランターに花を植えてリースし環境美化を図る「HANA-WAプロジェクト」に協力している。

平成30年度からプランターを7台（明日都浜大津3階プロムナード「大津絵の道」に設置）に変更したが、プランターの前に大津市社協を啓発する表示用看板を設置した。（平成30年度 7台）



啓発表示看板



プロムナードへの設置

（４） 地域福祉を協働で進める取り組みの推進

①社会福祉法人との連携と支援に取り組みます

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
支援が必要な高齢者や障害のある人、子育て家庭等へ、適切な支援策を見出すため、市内社会福祉法人とのネットワークを構築する。また、地域支援と専門支援を融合した多職種間による地域福祉推進力の拡大を図ることにより、新しい日常生活支援のあり方を検討する。	施設連絡会会員施設と協働し、かぎ預かり事業、生活困窮者やひきこもりの方の働く体験、夕方から夜の子どもの居場所づくり等を実施した。	地域ニーズの発信を積極的に行うことで、福祉施設が地域とかかわる機会をつくる。より多くの福祉施設が地域と協働し、公益的な取り組みの実践ができるように働きかける。

②大学との連携を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
大学との連携・協働の機会を充実するため、学生や市民が活動情報の取得や相談等を気軽にできるよう、大学との連携の強化を図る。	大学へのボランティア情報の提供や学生が参加しやすい内容をテーマにした講座を開催した。	おおつボランティア情報システムの広報や学生・市民が参加しやすい情報をまとめたチラシを作成する。

③企業などとの連携による取り組みを進めます

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
団体や関係施設が、企業の社会貢献活動の展開や地域福祉活動に参画できるよう、民間活力と連動した地域福祉の推進を図る。	災害ボランティア事前登録や高齢者等地域見守りネットワークの登録で、企業との連携を進めた。	企業へ地域福祉活動の現状を伝え、どんな支援が求められているかを整理するなど、社会貢献活動に取組みやすい環境を整備する。

主な事業

・大津市社会福祉協議会施設連絡会について

平成 30（2018）年度に 2 年目を迎えた施設連絡会は、大津市域での幹事会や保健福祉ブロックごとの連絡会をとおして、会員施設同士の情報共有や交流を推進した。「小規模法人のネットワーク化による協働推進事業」の補助金の交付を受け、子どもたちの夕方から夜の居場所づくり、生活困窮やひきこもりの方のお仕事体験会など新たな事業展開に取り組んでいる。

また、平成 30 年 7 月豪雨災害に伴う被災地支援では、7 施設から 9 名の職員の皆様の参加があった。

◎施設連絡会役員

- 会 長：前阪良憲氏（特別養護老人ホーム真盛園園長）
- 副会長：白杉滋朗氏（NPO法人おおつ「障害者の生活と労働」 協議会 事務局長）
- 副会長：山本朝美氏（社会福祉法人小鳩会理事）
- 幹 事：堤 英幸氏（特別養護老人ホームリバプール施設長）
- 幹 事：西山英男氏（大津市保育協議会会長・わかば保育園園長）

会員施設状況（H31.3.31 現在）

分野別

分野	施設数	
	平成 30 年度	平成 29 年度
高齢	43	40
障がい	45	40
児童	5	5
保育	33	32
その他	4	1
合計	130	118

ブロック別

ブロック	施設数	
	平成 30 年度	平成 29 年度
志賀	10	8
北部	14	13
比叡	29	26
中部	19	17
中南部	21	19
南部	11	11
東部	26	24
合計	130	118

1) 総会の開催

- 日 時 平成 30 年 4 月 17 日（火） 14 時～
- 場 所 明日都浜大津ふれあいプラザ 4 階 ホール
- 議 事 平成 29 年度事業報告について
平成 30 年度事業計画（案）について
- 研修会 講演『地域共生社会の実現と社会福祉施設の役割』
講師 厚生労働省 政策企画官 野崎伸一 氏
- 参加者 45 施設 49 名



2) 幹事会の開催

回数	日 時	内 容
1	6 月 6 日（水） 13：30～	<ul style="list-style-type: none"> ・総会の報告について ・国庫補助事業について ・平成 30 年度事業について

2	9月13日(木) 13:30～	<ul style="list-style-type: none"> ・国庫補助事業について ・ブロック連絡会の経過報告について ・災害対応について
3	12月13日(木) 15:00～	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック連絡会の経過報告について ・平成31年度総会について
4	3月7日(木) 14:00～	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度事業報告、平成31年度事業計画(案)について ・平成31年度総会、研修会について ・役員改選について

3) ブロック施設連絡会の開催

ブロック	開催回数	主な内容
志賀・北部	3	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時等の施設間連携リスト(災害時連絡表)の作成 ・福祉学習のための施設紹介冊子の発行と学校への配布
比叡	3	<ul style="list-style-type: none"> ・夕方から夜の子どもの居場所づくり事業「フリースペースしんせい」の開設・運営
中部	3	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の「お仕事見学会」の実施 ・ひきこもり、生活困窮者の施設での就労体験の実施 ・ブロック社協主催の災害研修に参加
中南部	3	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の保有する資源(人・物・場所・災害等)の共有 ・こども110番活動への施設の参画
南部	3	<ul style="list-style-type: none"> ・制度・分野を越えた研修会を実施 ・施設の〇〇貸しますリストの検討
東部	2	<ul style="list-style-type: none"> ・夕方から夜の子どもの居場所づくり事業「フリースペース」の検討 ・子ども若者相談についての勉強会の開催

4) 啓発事業

(1) 福祉施設を対象に大津市社協施設連絡会(組織構成会員)加入の促進(新規12施設)

(2) 市民および関係機関等への啓発

『おおつ民児協連だより』への掲載(平成31年1月号)

5) 会員施設の連携・情報共有

(1) 施設連絡会ネットワークシステムの構築

施設連絡会会員施設同士の情報共有や情報発信などをスムーズに行うため、システムを構築した。これまで、ブロック連絡会の案内や物品などの寄付に関する情報などは郵送やメールを通じて行ってきたが、システムを活用することにより「分野」「ブロック」を選択して発信することや、会員施設から直接発信することも可能となる。

今後、会員施設ごとに登録をしていただき、会員のコミュニティページとして活用する。



施設名/法人名	住所	TEL
伊豆 栗原会 社会福祉法人共生シフォン	大津市大塚2-33-6	077-544-6692
伊豆 伊豆立の社本郷 社会福祉法人おおつ福祉会	大津市山百合の丘1番1号	077-598-8001
伊豆 健康の家共同作業所 特定非営利活動法人健康の家	大津市南船場271-1	077-592-0185
伊豆 びわこダルク	大津市丸の内町8-9	077-521-2944

(2) ニュースレターの発行(2回)

6) 生活困窮者やひきこもりの若者の社会参加と就労支援

自立支援グループと地域・ボランティア支援グループが連携し、施設連絡会の会員施設とのタイアップによる「お仕事体験会」を中部ブロック・中南部ブロックで実施した。

相談者のなかには、働いた経験が少なく、「働くイメージが湧かない」「就労のプランクがあって今後どんな職種で働いたらよいかわからない」「再就職に向けて自信をつけたい」など、働くことに不安を抱えている方が一步を踏み出すきっかけになればと、高齢・障害・保育等の各施設が職場体験の受け入れをし、清掃や箱折り、洗濯物たたみなどの作業の切り出しと寄り添いサポートを実施。社会経験の積み重ねと人から感謝されることで自尊感情が醸成され、自身の強みを知ることで、就労意欲喚起につながっている。

また、福祉施設にとっては地域における公益的な取組だけでなく、将来的に福祉人材の確保につながることを期待する。

【実施回数】 13回

【受入れ施設数】 9施設

【参加者総数】 31名

【参加者実人数】 15名

【就労決定】 3名

	受入れ施設	体験例	参加者
1	長等ほたるの家	お土産用箱づくり	1
2	浜大津保育園	砂場の整地	2
3	まごころの家なごみ	利用者のサポート	1
4	長等の里	清掃、洗濯物たたみ	1
5	滋賀保護院	施設内清掃	3
6	大津市社会福祉協議会	ティッシュBOXシール張り、ポケットティッシュ入れ、ボランティア保険判子押し	7
7	湖のこ保育園	倉庫の整理、書類整理	4
8	滋賀保護院	居室清掃、製作	2
9	長等ほたるの家	箱折り	3
10	長等の里	清掃、洗濯物たたみ	1
11	大津老人ホーム	洗濯たたみ	2
12	唐崎デイサービスセンター	利用者の見守り	1
13	湖のこ保育園	草引き	3
合計	9施設		31



7) 地域における支援を必要とする子どもたちの居場所を施設につくる

夕方から夜にかけての子どもの居場所づくり事業「フリースペースしんせい」を10月から坂本学区の真盛園で比叡ブロック施設連絡会会員・地域住民の協働で開始した。

事業開始に向けて、対象となる子どもの支援調整会議（H30年8～9月）、「子どもとの関わり方を学ぶ勉強会」（H30年9月）を開催。H30年10月以降、週に1回（毎週火曜日）、子どもが安心してのびのび過ごせる居場所づくりに取り組んだ。

また、特別養護老人ホームカーサ月の輪においては、新たな子どもを対象に「フリースペースカーサⅡ」として居場所づくりを実施。

【実施体制】 管理者：真盛園、カーサ月の輪

スタッフ：施設職員、施設連絡会会員、地域住民、
大学生ボランティア ほか

【連携機関】 学校、比叡ふれあいセンター、大津市子ども家庭相談室

フリースペース名	開催回数	子ども総数	子ども実人数	スタッフ総数
しんせい	11	11	1	61
カーサⅡ	16	17	3	25



8) 地域のひとり暮らし高齢者等のかぎを施設で預かることで緊急時の安心を確保する

ひとり暮らし高齢者などの自宅の鍵を預かることで、自宅で安心して暮らし続けられることや孤独死などの事故を予防することを目的に「ずっとあんしんかぎ預かり事業」を実施した。

また、福祉施設は、ずっとあんしん事業を通じて大津市社協及び地域と連携することで、地域における見守り力の向上を図ることにより公益的な事業を行った。

民生委員児童委員からは、「見守りの大きなツールになった」「民生委員もカギを預かっていて不安だったので安心できる」と大変喜ばれている。

◎実施学区と福祉施設

項目\数	1	2	3	4	5
学区	真野北	瀬田北	瀬田	長等	下阪本
地域窓口	地区民児協	地区民児協	地区民児協	小関町自治会	地区民児協
福祉施設	真野しょうぶ苑	福寿荘	夕照たまのうら	長等の里	やすらぎの郷



9) 平成 30 年 7 月豪雨災害に対するボランティアへの協力

台風 7 号および梅雨前線等の影響による集中豪雨で、西日本各地で土砂災害などの被害が発生した。大津市社協から被災地支援のための「災害ボランティアバス」が運行され、施設連絡会会員施設からも現地でのボランティア活動に参加した。

猛暑の中であったが、参加された他の関係機関のみなさんと協力して活動を行った。

○京都府宮津市

日 程：平成 30 年 7 月 18 日（月）

参加者：5 施設 7 名

○岡山県倉敷市

日 程：平成 30 年 8 月 2 日（木）

参加者：2 施設 2 名